

KOKUYO

USB認証キー

FILSAFER KEY

EAM-UK500

取扱説明書



本製品を正しくご使用いただくために、
ご使用前に必ず本取扱説明書をお読みください

はじめに

このたびは「FILSAFER KEY (フィルセイファーキー)」EAM-UK500をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書は、本製品の使いかたと使用上の注意事項について記載しています。

ご使用前に、よくお読みの上、正しくお使いください。本製品をご使用になる前に必ず、本書に記載の「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みになり、内容をご確認、ご承諾のうえご使用ください。お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

- 本製品の使用を原因とする損害・逸失利益などにつきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書は基本OS 日本語Windows98SE/Me/2000 Professional/XP Professional/XP Home Editionのいずれかがコンピュータにセットアップされていること、またそれらのコンピュータを使用するうえでの基本的な用語や操作について、既に理解されていることを前提に書かれています。用語や操作などについての不明な点は、各OSのマニュアルや、ご使用のコンピュータのマニュアルなどをご覧ください。
- 本書の内容は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本書はソフトウェア開発中に作成されるため、一部仕様と異なる箇所が存在することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することはお断りいたします。
- 本書の作成には万全を期しておりますが、万一ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

Microsoft、Windows は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。

本製品をお使いになる前に、下記の「ソフトウェア使用許諾契約書」を必ずお読みください。

弊社では、お客様に対して、ソフトウェア使用許諾契約書を設けさせていただいております。

お客様がこの契約内容にご同意いただいた場合のみ、本製品の使用を許諾しております。

ソフトウェア使用許諾契約書

総則

コクヨS&T 株式会社（以下「弊社」と言います。）は、お客様が弊社より購入したFILSAFER KEY EAM-UK500（以下「本製品」と言います。）を使用するために必要なソフトウェア製品であるFILSAFER KEY EAM-UK500 ソフトウェアを使用する非独占的で譲渡不可能なライセンスをお客様に付与し、お客様は下記条項に合意するものとします。お客様が当該ソフトウェアをインストール、複製、その他の方法で使用した日をもって、お客様により本使用許諾契約書の内容に同意いただいたものとします。

第1条 用語定義

- (1) ソフトウェアとは、本契約の各条項に基づいてお客様に提供されるFILSAFER KEY EAM-UK500 ソフトウェアのプログラム本体と、オンラインヘルプマニュアル、および部品類の構成品からなるオリジナルコピーを言います。
- (2) ソフトウェア複製物とは、コンピュータで読み取り可能な形で複製されたソフトウェアのすべて、または一部の複製物（付録の画像データ、フォントなど）を言います。
- (3) ドキュメントとは、本製品に含まれるユーザズマニュアル、その他の印刷物を指します。

第2条 ご使用条件

- (1) ソフトウェアに関する知的財産権等すべての権利は十条電子株式会社または販売ライセンスを受けた弊社に帰属します。
- (2) 本契約書に同意したお客様が管理するコンピュータ（複数可）で使用する場合に限り、本ソフトウェアの使用を許可します。

- (3) お客様は、ソフトウェアをバックアップまたはお客様が管理するコンピュータで使用する目的でソフトウェア複製物を作成できます。但し、お客様が作成した複製物の著作権は十条電子株式会社または販売ライセンスを受けた弊社に帰属するものとします。
- (4) 本ソフトウェアは本契約に同意したお客様が日本国内のみでご使用になります。

第3条 禁止事項

- (1) お客様は、前条に規定された使用条件以外にソフトウェア複製物を作成することはできません。
- (2) お客様は、ソフトウェアやドキュメントの一部または全部に関して、その使用权を再設定、賃貸またはリース契約をすることはできません。
- (3) お客様は、ソフトウェアを改変、リバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできません。
- (4) お客様は、ソフトウェアやドキュメントの弊社、並びに十条電子株式会社の著作権表示及び商標を変更、削除、または不鮮明にしたり、見えない様にしたりすることはできません。
- (5) お客様は、ソフトウェアやドキュメントを無断で複製、転写、記載、改変することはできません。
- (6) お客様は、ソフトウェアやドキュメントを第三者と共同で使用、譲渡、または第三者が使用することを許諾してはなりません。
- (7) お客様は、ソフトウェアやドキュメント、並びにソフトウェアやドキュメントと他の商品と抱き合わせた商品やシステムを、営利の目的で直接または間接的な方法で転売、出荷、転用もしくは輸出、再輸出してはなりません。

第4条 保証期間

弊社は、お客様による本製品の購入日から90日間、ソフトウェアの瑕疵に起因してソフトウェアのインストールをおこなうことができないと弊社が認める場合、お客様が弊社にお支払した本製品およびソフトウェアの代金を返金するか、無償での新品との交換を、弊社の選択によりおこないます。なお、当該交換をおこなった製品が当該製品の瑕疵に起因してインストールをおこなうことができないと弊社が認める場合は、本製品の購入日から90日間か、または当該新品交換日から30日間のいずれか長い期間、本条を準用するものとします。

第5条 免責事項

弊社は、前条に定める事項を除き、通常の使用をおこなったか否かにかかわらず、いかなる場合も、本製品、ソフトウェアもしくはドキュメントの瑕疵、または本製品、ソフトウェアもしくはドキュメントの使用、あるいは使用できなかったことによりお客様が発生した利益や資産の喪失、情報やデータの喪失および破損、人命や環境にかかる損害、業務の中断その他の偶発的な損害を含む直接的、間接的な一切の損害について、お客様に対して一切の責任を負いません。また、弊社はお客様に対していかなる第三者からなされた損害賠償請求にも一切の責任を負いません。

第6条 契約期間



- (1) 本契約は、お客様がソフトウェアをインストール、複製、その他の方法で使用した日である本使用許諾契約書の内容に同意していただいた日に発効し、お客様がソフトウェアとソフトウェア複製物及びドキュメントすべての使用を止めるときまでを有効とします。
- (2) お客様が本契約のいずれかの条項に違反したときは、弊社は事前の通告なしに本契約を終了することができます。その場合、お客様は弊社にソフトウェアとソフトウェア複製物並びにドキュメントを返却するか、またはすべてを破棄したことを示す文書を送付しなければなりません。

第7条 その他




- (1) 本契約に関わる紛争は、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所として解決するものとします。
- (2) 本契約の一部が法律に適合しなくなった場合は、その部分は本契約から除外します。但し、その他の部分は影響を受けないものとします。

安全上のご注意





警告および注意事項

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵記号の意味

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告

-  本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンのメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。
-  他人に悪用される恐れがありますので、本製品を放置しないでください。
-  本製品を水に濡らさないでください。
火災・感電の原因になります。浴室、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
-  煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。ただちにパソコン本体の電源を切り、本製品をパソコン本体から抜き取ってください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。本製品を抜き取る際には、タオルやハンカチ等で手を防護してください。

⚠注意

- ① 本製品を改造したり分解しないでください。
火災・感電・動作不良の原因となります。差し込まれたパソコン本体に障害を与える可能性があります。
- ② 本製品を以下のような場所で保管・使用しないでください。
 - 振動や衝撃の加わる場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 湿気やほこりが多い場所
 - 温度差の激しい場所
 - 熱の発生する物の近く(ストーブ、ヒータなど)
 - 強い磁力電波の発生する物の近く(磁石、ディスプレイ、スピーカー、ラジオ無線機等)
 - 水気の多い場所(台所、浴室等)
 - 傾いた場所
 - 腐食性ガスを含んだ大気中(Cl_2 、 H_2S 、 NH_3 、 SO_2 、 NO_x 等)
 - 静電気の影響の強い場所
- ③ 本製品は精密部品です。以下の注意をしてください。
 - 落としたり、衝撃を加えない
 - 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
 - 重いものを上にのせない
 - 本製品の近くで飲食・喫煙などをしない

使用上のご注意

- 本製品は、Windows95、Windows98 (SEを除く)、WindowsNT、MS-DOS、Macintosh、Linux などの基本OS には対応しておりません。
- 他の暗号化セキュリティソフトウェア、およびコピー防止プロテクトソフトウェアがパソコンにインストールされている場合は、必ずそれらのドライバをアンインストールしてから、本製品をインストールしてください。
- 起動しているソフトウェアはすべて終了してからインストール・アンインストールを行ってください。ウイルス駆除ソフト、常駐しているソフトウェアも終了させてからインストール・アンインストールを行ってください。
- 上書きインストールは行わないでください。再インストールされる場合は、常駐を含むすべてのアプリケーションを終了させ、アンインストールを実行し、パソコンを再起動させてから行ってください。
- Windows自動ログオン機能を有効に設定すると、WindowsXPのユーザ簡易切替機能は使用できなくなります。
- キーの抜き差しは、5秒以上間隔をおいて行ってください。
- EAM-UK500の誤操作や製品の不具合により、ご使用のパソコンに不具合が発生した場合の損害賠償等には応じられません。詳しくは、EAM-UK500のソフトウェア使用許諾契約書の免責事項をご確認ください。
- キーを紛失すると、設定によってはパソコンのロックが解除できなくなりますので、キーの紛失には十分ご注意ください。
紛失時に備えて、必ずキー情報のバックアップを行ってください。また、あらかじめスペアキーを作成されることをおすすめいたします。

同梱品の確認

ご使用前に以下のものが揃っていることをご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社お客様相談室までお知らせください。

- FILSAFER KEY EAM-UK500 本体 × 1 個
- 取扱説明書（本書） × 1 冊
- 保証書 × 1 枚
- CD-ROM × 1 枚

本書の使い方

本書では以下のようなアイコンで補足情報を記載しています。



参照先のページを記載しています。



知っておくと便利な情報などを記載しています。



操作上の注意事項などを記載しています。



- 本書の内容、および画面は日本語WindowsXP (Service Pack 1) を例に説明しています。ご使用のパソコンの設定によっては画面のサイズやデザイン及び表示されるメッセージが異なる場合があります。

目次

ソフトウェア使用許諾契約書	1
安全上のご注意	4
使用上のご注意	6
同梱品の確認	7
本書の使い方	8
目次	9

第1部 「EAM-UK500」の概要とセットアップ..... 13

1. 「EAM-UK500」とは	14
スクリーンセーバロック	14
Windows自動ログオン	15
ファイルやフォルダの暗号化	16
「ネットキー」機能を使ったファイルの暗号化	17
外部メディアのアクセス禁止	18
パスワードメモリー機能	19
2. 「EAM-UK500」のインストール	20
動作環境	20
「EAM-UK500」をインストールする	21
「EAM-UK500」をアンインストールする	25
「EAM-UK500」を修復インストールする	27
3. 「EAM-UK500」キーの生成	29
4. 設定メニューの表示	37

第2部 「スクリーンセーバロック」と「Windows自動ログオン」の設定 39

1. スクリーンセーバロックの設定	40
スクリーンセーバロックをONにする	40
スクリーンセーバロックをOFFにする	43

2.Windows自動ログオンの設定	44
Windows自動ログオン設定を有効にする	44
自動ログオン設定をONにする	46
キーのみログオン設定をONにする	48
キーのみログオン設定をOFFにする	52
自動ログオン設定をOFFにする	53
Windows自動ログオン設定を無効にする	54
第3部 データの暗号化	55
1.「EAM-UK500」で実現できる暗号化とは？	56
2.「EAM-UK500」による暗号化	57
ファイルを暗号化する	57
暗号化されたファイルを開く	60
ファイルの暗号を解除する	61
フォルダを暗号化する	61
フォルダの暗号を解除する	63
暗号化ファイルマネージャを使う	64
暗号化ファイルマネージャを使って暗号化する	66
暗号化ファイルマネージャを使って暗号を解除する	67
暗号化ファイルやフォルダを共有するには？	68
ユーザ情報をエクスポートする	70
「EAM-UK500」キーからユーザ情報をインポートする	71
「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルからユーザ情報をインポートする	75
ユーザ情報を削除する	77
「EAM-UK500」による暗号化ファイルの共有	78
暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する	79
暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを削除する	81
アクセス権の種類	82
アクセス権を設定するユーザの種類	83
ユーザごとのアクセス権を設定する	84
3.ネットキーによる暗号化	85
ネットキーについて	85

ネットキーを利用してファイルを暗号書庫化する.....	86
暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加する.....	89
暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを削除する.....	90
暗号書庫ファイルの暗号を解除する.....	91
ネットキーツールバー.....	92
4.ユーザのグループ分けと管理.....	93
ユーザグループのフォルダを作成する.....	95
フォルダを現在の階層から別の階層へ移動させる.....	98
ユーザグループのフォルダを削除する.....	99
ユーザグループの階層名を変更する.....	100
ユーザグループのフォルダにユーザを追加する.....	101
ユーザグループのフォルダからユーザを削除する.....	102
グループマネージャを設定する.....	103
ユーザグループ情報のインポートとエクスポート.....	104
ユーザグループを使って暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する.....	106
ユーザグループを使ってネットキーでファイルを暗号書庫化する.....	109
第4部 便利な機能とキーの管理.....	111
1.外部メディアのアクセス禁止設定.....	112
外部メディアのアクセスを禁止する.....	112
外部メディアのアクセス禁止を解除する.....	114
2.よく使うパスワードの保存.....	115
パスワードメモリーにパスワード情報を追加する.....	115
パスワードメモリーをパスワードで保護する.....	120
パスワードメモリーのパスワード情報を修正する.....	123
パスワードメモリーのパスワード情報を削除する.....	124
パスワードを自動生成する.....	125
パスワードメモリーを利用する.....	125
3.キーの設定と管理.....	127
「EAM-UK500」キーの生成／再生成.....	127
キー情報をバックアップする.....	129
キー情報を復元する.....	131

キー情報を消去する	133
PIN保護を有効にする	134
暗号アルゴリズムを設定する	138
自動ログオフ設定をONにする	140
自動ログオフ設定をOFFにする	141
コンピュータをロックする	142
付録	143
こんなときには	143
よくある質問	149
おもな仕様	154
索引	155
お問い合わせ表	159
アフターサービスについて	160

第1部

「EAM-UK500」の概要と セットアップ

「EAM-UK500」をはじめてお使いの方は、ここから読みください。

1. 「EAM-UK500」とは	P.14
2. 「EAM-UK500」のインストール	P.20
3. 「EAM-UK500」キーの生成	P.29
4. 設定メニューの表示	P.37

1. 「EAM-UK500」とは

「EAM-UK500」は、快適さを損なわずにパソコンのセキュリティを高める、新しい形の電子の鍵です。ここでは、「EAM-UK500」で、どのようなことができるのかを簡単に紹介します。

スクリーンセーバロック (操作説明はP.40参照)

「EAM-UK500」キーをパソコンから抜き取るだけでスクリーンセーバが起動し、再び「EAM-UK500」キーをパソコンに差し込むまで、キーボードやマウスの操作がロックされます。退席中に他のユーザに画面を盗み見られたり、勝手に操作されたりすることがないため、安心して席を外すことができます。



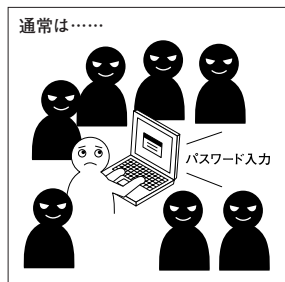
席を外しているときにパソコンの中身を簡単に見られてしまいます。



「EAM-UK500」キーを抜き取るだけで、簡単にパソコンをロックできるので、席を外しても安心です。

Windows自動ログオン (操作説明はP.44参照)

Windowsログオン時のパスワード認証の代わりに、「EAM-UK500」キーをパソコンのUSBポートに差し込むだけで自動的にログオンすることができます。パスワードの入力を背後からのぞかれる心配がないため、安全に利用することができます。



Windowsログオン時のパスワードを背後からのぞかれてしまい危険です。



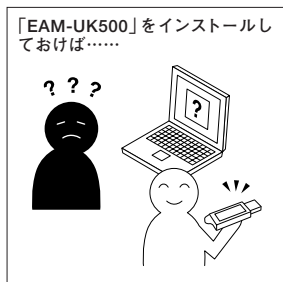
「EAM-UK500」キーを差し込むだけで自動的にログオンできるのでパスワードを知られる心配がありません。

ファイルやフォルダの暗号化 (操作説明はP.57参照)

「EAM-UK500」は強力な暗号化機能を持っています。これを利用して、パソコン内のファイルやフォルダなどを暗号化し、特定のユーザ以外にデータの内容が読み取れないように設定することができます。



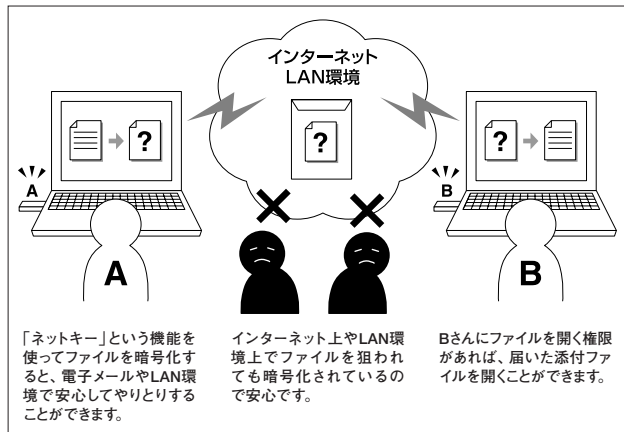
ファイルやフォルダを暗号化しておかないと、簡単に持ち出されてしまいます。



ファイルやフォルダを「EAM-UK500」キーで暗号化しておけば、開くことも、持ち出すこともできません。

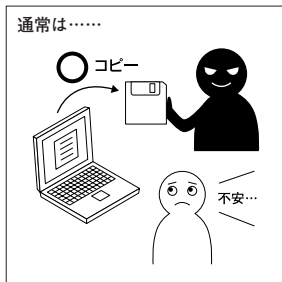
「ネットキー」機能を使ったファイルの暗号化 (操作説明はP.85参照)

「ネットキー」という機能を使ってファイルを暗号化すると、電子メールやLAN環境で安心してファイルをやりとりすることができます。



外部メディアのアクセス禁止 (操作説明はP.112参照)

「EAM-UK500」には、外部メディアのアクセス禁止機能があり、フロッピーディスクやCD-ROM、MO、USBメモリなどのリムーバブルディスクへのアクセスを禁止することができます。「EAM-UK500」キーが差し込まれていないと、リムーバブルディスクにファイルを持ち出すことができなくなります。また、CD-ROMから勝手にソフトウェアをインストールされるのを防ぐ効果もあります。



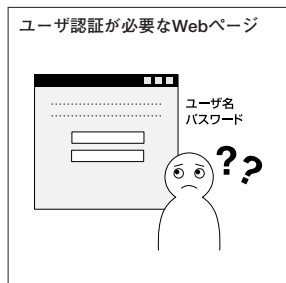
席を外しているときにパソコンのファイルを簡単にリムーバブルディスクにコピーされてしまいます。



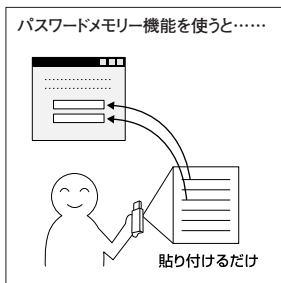
「EAM-UK500」キーが差し込まれていないと、ファイルをリムーバブルディスクにコピーできないように設定できます。

パスワードメモリー機能 (操作説明はP.115参照)

「EAM-UK500」キーの中に、よく使うユーザ名とパスワードを保存することができます。たとえば、ユーザ認証が必要なWebページのユーザ名とパスワードを保存しておけば、必要なときに簡単に呼び出すことが可能です。



ユーザ名とパスワードを覚えているのは面倒……。



「EAM-UK500」キーに記憶させておけば簡単に呼び出すことが可能です。

2. 「EAM-UK500」のインストール

「EAM-UK500」をご使用になる前に、お使いになるパソコンに「EAM-UK500」を正しくインストールする必要があります。この章では、インストールの方法について説明します。

動作環境

「EAM-UK500」のご使用にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

対応OS	日本語Windows98SE/Me/2000 Professional/XP Professional/XP Home Editionが正しく動作するパーソナルコンピュータ
対応PC	PC/AT互換機 (DOS/V)
CPU	Pentium II 以上
メモリ	32MB以上
ハードディスク空き容量	100MB以上
ドライブ	CD-ROMドライブ
ディスプレイ	解像度640×480 (VGA) / 16bitカラー以上の表示能力を持つカラーモニター
インターフェース	USB1.1 準拠

❗ 注意

- Windows95/98/NTには対応していません。
- NEC PC-9821シリーズはサポートしていません。
- USBハブを経由した動作は保証しかねます。

「EAM-UK500」をインストールする

❗ 注意

- 「EAM-UK500」キーは、まだ接続しないでください。
「EAM-UK500」のインストール終了後、[キー生成ウィザード]で、「EAM-UK500」キーを差し込む画面が表示されたときに接続してください。
- 他の暗号化セキュリティソフトウェア、およびコピー防止プロテクトソフトウェアがパソコンにインストールされている場合は、必ずそれらのドライバをアンインストールしてから、本製品をインストールしてください。
- 起動しているソフトウェアはすべて終了してからインストールを行ってください。ウイルス駆除ソフトなど、常駐しているソフトウェアもインストール時にはすべて終了させてください。

1. 同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。自動的に「FIL-SAFER KEYエクスプレス インストーラー」(以下、インストーラー)が起動します。

❗ 注意

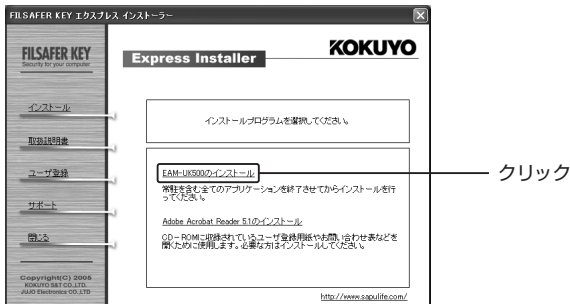
インストーラーが自動的に起動しない場合は、CD-ROM内の[Japanese]フォルダ-[setup]フォルダの中にある[setup.exe]をダブルクリックしてください。

メモ

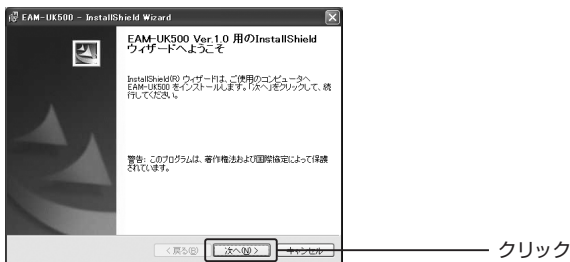
「EAM-UK500」のソフトウェアにはTypeAとTypeBの2種類があり、通常はTypeAのソフトウェアがインストールされます。TypeBはCD-ROM内の[typeB]フォルダに収録しています。TypeAとTypeBでは「EAM-UK500」の機能であるPIN保護機能の設定が異なります。詳しくは、以下のページを参照してください。

 P.134 「PIN保護を有効にする」

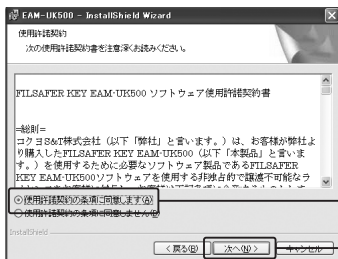
2. インストーラーの[EAM-UK500のインストール]をクリックします。
しばらくするとインストールウィザードが起動します。



3. [次へ] ボタンをクリックします。



4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認し、同意されましたら[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



① 選択して

② クリック

5. [次へ]ボタンをクリックします。

インストール先を変更したい場合は、[変更]ボタンをクリックして変更します。変更してから[次へ]ボタンをクリックしてください。



クリック

6. [完了] ボタンをクリックします。



クリック

7. 再起動を促すメッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてパソコンを再起動させてください。

！ 注意

再起動しないと、システムが正常に動作しないなど故障の原因になる恐れがあります。

メモ

再起動後、「EAM-UK500」キーを利用するには、キーの生成を行う必要があります。

参照 P.29 「EAM-UK500」キーの生成

「EAM-UK500」をアンインストールする

！ 注意

- アンインストールする前に、必ず暗号化したファイルやフォルダをすべて解除してください。暗号解除されなかったファイルやフォルダは、アンインストール後に開くことができなくなります。

参照 P.61 「ファイルの暗号を解除する」
P.63 「フォルダの暗号を解除する」
P.91 「暗号書庫ファイルの暗号を解除する」

- アンインストールには、管理者キーの情報を持つ「EAM-UK500」キーが必要です。キーが管理者キーでない場合は、バックアップファイルから管理者キーの情報を復元してください。
キーの復元方法については、以下のページを参照してください。

参照 P.131 「キー情報を復元する」

- 管理者キーについては、以下のページを参照してください。

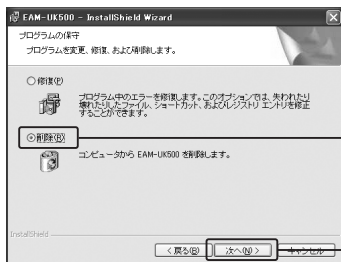
参照 P.31 メモ「管理者キーについて」

- アンインストールする前に、常駐を含むすべてのアプリケーションを終了させてください。
また、念のため「EAM-UK500」の以下の設定をすべてOFFにしてください。

参照 P.43 「スクリーンセーバロックをOFFにする」
P.53 「自動ログオン設定をOFFにする」
P.141 「自動ログオフ設定をOFFにする」

- 「EAM-UK500」キーをUSBポートに差し込みます。
- 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」-「FILSAFER KEY」-「EAM-UK500をアンインストールする」を選択します。
ウィザード画面が表示されます。
- 「次へ」ボタンをクリックします。

4. [削除] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



① 選択して

② クリック

5. [削除] ボタンをクリックします。



クリック

6. 完了画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックしてください。

7. 再起動を促すメッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックして、必ずパソコンを再起動させてください。

❗ 注意

再起動する前に必ず「EAM-UK500」キーをUSBポートから抜き取ってください。

メモ

上記手順以外に、[スタート]メニューから[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] (Windows98SE/Me/2000は[アプリケーションの追加と削除])からアンインストールすることもできます。

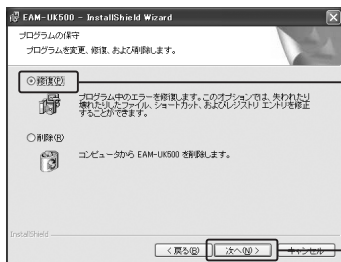
「EAM-UK500」を修復インストールする

インストール済みの「EAM-UK500」のプログラムが、何らかの原因で破損した場合には、修復インストールを試すことができます。

注意

修復インストールを試しても、状態が改善されない場合には、アンインストールをしてから、再度インストールし直してください。

1. 「EAM-UK500」に同梱のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。
2. [スタート]メニューから[すべてのプログラム]-[FILSAFER KEY]-[EAM-UK500をアンインストールする]を選択します。
ウィザード画面が表示されます。
3. [次へ]ボタンをクリックします。
4. [修復]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



① 選択して

② クリック

5. [インストール] ボタンをクリックします。

修復インストールが開始されます。



クリック

6. 完了画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックしてください。

7. 再起動を促すメッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。

❗ 注意

- 再起動しないと、システムが正常に動作しないなど故障の原因になる恐れがあります。
- 修復インストールを行うと、今までの設定がすべてOFFになりますので、再度設定し直してください。

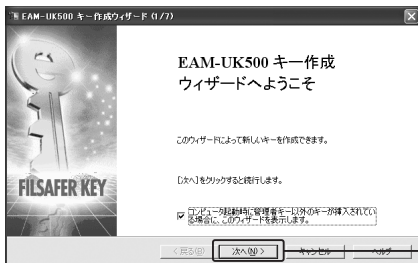
3. 「EAM-UK500」キーの生成

「EAM-UK500」をご利用いただくためには、「EAM-UK500」キーに対応するユーザー名とパスワードの設定が必要です。この一連の設定過程を「キーの生成」と呼びます。「EAM-UK500」のインストールが完了すると、自動的に「EAM-UK500」キー生成ウィザードが起動します。

メモ

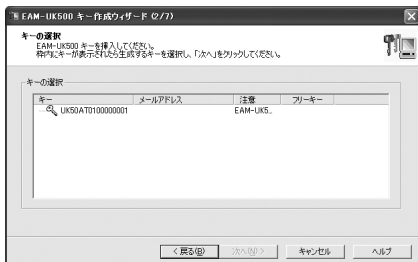
「EAM-UK500」キー生成ウィザードが自動的に起動しない場合は、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]-[FILSAFER KEY]-[EAM-UK500]を選択してください。

1. [次へ] ボタンをクリックします。



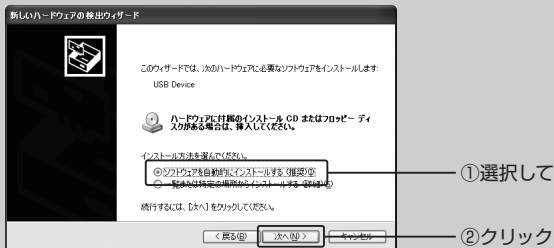
2. 「EAM-UK500」キーをUSBポートに接続します。

[キーの選択] リストボックスに現在USBポートに接続されている「EAM-UK500」キーの情報が表示されます。



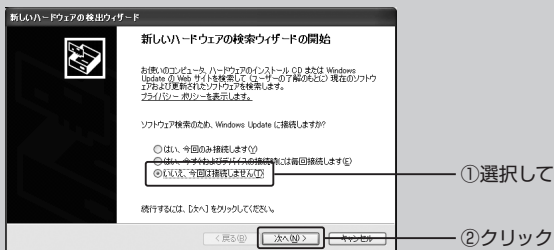
！ 注意

- 「EAM-UK500」キーをパソコンに接続したときに、新しいハードウェアの検出ウィザードが表示されることがあります。



「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択して「次へ」ボタンをクリックしてください。

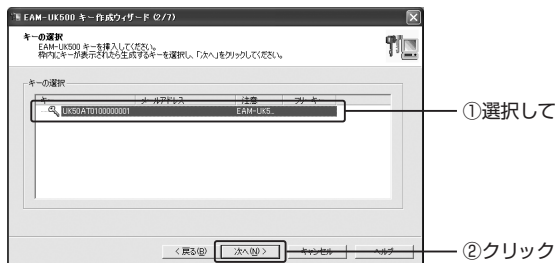
また、Windows XP Service Pack 2では、最初にWindows Updateへの接続を問合わせる画面が表示されることがあります。



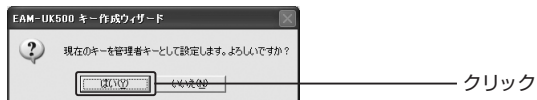
「いいえ、今回は接続しません」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。

- 「EAM-UK500」キーを接続しても、[キーの選択]リストボックスにキーの情報が表示されない場合は、[スタート]メニューから[コントロールパネル] - [システム]を選択し、デバイスマネージャを表示します。デバイスマネージャから「！」や「×」、「不明なデバイス」を削除し、「EAM-UK500」キーを抜いた後、上記手順に従って、再度キーを生成してください。

3. キーを選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



4. 「EAM-UK500」をインストール後、初めてキーを生成する場合、「現在のキーを管理者キーとして設定します。よろしいですか?」と示すダイアログボックスが表示されます。よろしければ [はい] ボタンをクリックしてください。



メモ

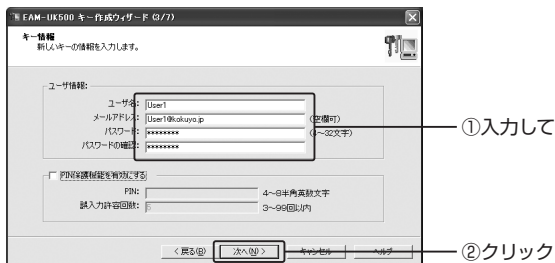
管理者キーについて

「管理者キー」は、「EAM-UK500」をインストールしたパソコン1台に対して1本だけ設定できる管理者用のキーです。「EAM-UK500設定メニュー」にある「スクリーンセーバロック」「Windows自動ログオン」「キー設定」の設定変更やアンインストールは、管理者キーがないと実行できません。また管理者キーを設定しておかないと、パソコンを管理するキーがなくなるため、セキュリティ上大変危険です。必ず管理者キーを設定しておいてください。

ユーザキーについて

ここで [いいえ] ボタンをクリックすると、「ユーザキー」として設定されます。ユーザキー単独では、「EAM-UK500設定メニュー」にある「スクリーンセーバロック」や「Windows自動ログオン」「キー設定」の設定を変更することはできませんが、管理者キーと一緒にパソコンに差し込んだ状態で設定すると、その機能を利用することができます。

5. [ユーザ名] [メールアドレス] [パスワード] および [パスワードの確認] テキストボックスにそれぞれのデータを入力します。



メモ

- [ユーザ名] テキストボックスは、キー生成時にWindowsにログオンしていたユーザアカウントが自動的に表示されます。変更したい場合は、[ユーザ名] テキストボックスの内容を一度削除し、32文字までの半角英数字と半角記号、または16文字までの全角文字で入力し直してください。パスワードには、半角4文字以上32文字以下の半角英数字がキーボードから直接入力可能な半角記号の組み合わせで入力してください。
- PIN保護機能については以下のページを参照してください。

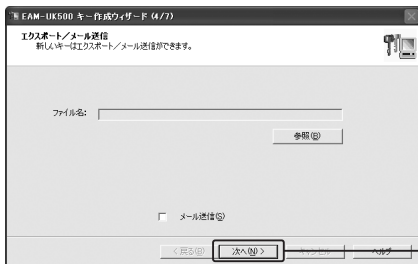
 P.134 「PIN保護を有効にする」

注意

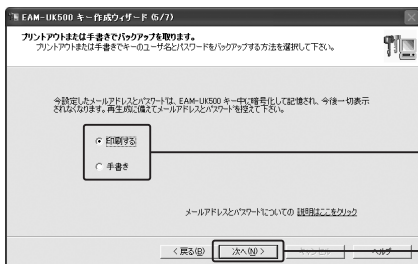
[パスワード] と [パスワードの確認] の入力内容が一致するまで、[次へ] ボタンをクリックすることはできません。

6. [エクスポート/メール送信] 画面が表示されます。この画面では、第3部「データの暗号化」で説明するユーザ情報ファイル(.epk形式)を保存したり、電子メールで送信したりします。これらの作業は、キーの生成後にも行うことができます。詳しくは以下のページを参照してください。ここでは、そのまま[次へ]をクリックします。

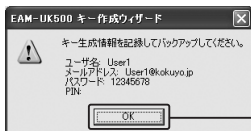
 P.55 「データの暗号化」



7. パスワードの内容を控えるため、[印刷]か[手書き]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



- 印刷の場合、プリンタの状態を確認するダイアログボックスが表示されます。[はい]ボタンをクリックし、続く[印刷]ダイアログボックスでプリンタを選択して[OK]ボタンをクリックします。
- 手書きの場合、以下のダイアログボックスが表示されます。必ずユーザー名、メールアドレス、パスワードをメモ用紙などに書きとめてから[OK]ボタンをクリックします。

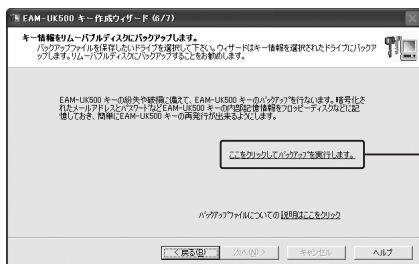


8. 確認画面が表示されます。[はい] ボタンをクリックします。

① 注意

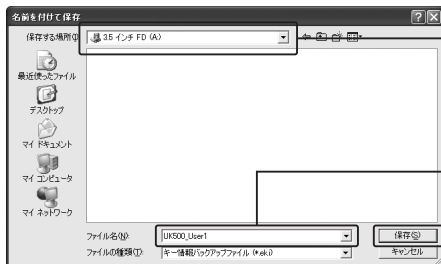
同じユーザ名、メールアドレス、パスワードから生成されたキーはスペアキーとして使用できるので、取り扱いには注意してください。

9. キー情報のバックアップ画面が表示されます。[ここをクリックしてバックアップを実行します。]をクリックします。



クリック

10. キー情報バックアップファイル(.eki形式)の保存場所とファイル名を指定し、[保存]ボタンをクリックします。



①場所を指定して

②ファイル名を指定して

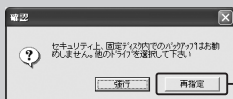
③クリック

メモ

ファイル名の入力欄には、あらかじめ“UK500_”と表示されています。この後ろに続けてファイル名を入力すると、後から「EAM-UK500」のバックアップファイルだということがわかりやすくなります。

注意

- キー情報バックアップファイルは、絶対に他のユーザに渡してはいけません。また、バックアップファイルをパソコンのハードディスク内に保存することは、セキュリティ上、おすすめできません。フロッピーディスクなどのリムーバブルディスクに保存し、厳重に保管することをおすすめします。
- 保存場所に、お使いのパソコンのハードディスクを指定した場合、以下の警告画面が表示されます。[再指定] ボタンをクリックして、保存場所を変更してください。



クリック

[強行] ボタンをクリックした場合は、以下の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、ハードディスクに保存することができますが、早めにフロッピーディスクなどのリムーバブルディスクに移動してください。

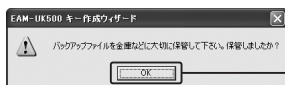


11. [OK] ボタンをクリックします。



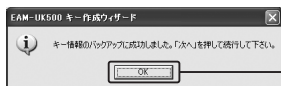
クリック

12. リムーバブルディスクを取り出し、[OK] ボタンをクリックします。



クリック

13. [OK] ボタンをクリックします。



クリック

14. キー情報のバックアップ画面に戻ります。[次へ] ボタンをクリックしてください。

15. [完了] ボタンをクリックします。

❗ 注意


- 「EAM-UK500」キーを紛失すると、設定によってはパソコンのロックが解除できなくなります。キーの紛失には十分ご注意ください。
紛失時に備えて、必ずキー情報のバックアップを行ってください。また、あらかじめスペアキーを作成されることをおすすめします。

参照 P.131 「キー情報を復元する」

- 普段使用していないUSBポートに初めて「EAM-UK500」キーを差し込んだ場合、ドライバのインストールが開始される場合があります。その場合、画面の指示に従って、インストールを完了させてください。これはWindowsの仕様であり、「EAM-UK500」キーの不具合ではございません。

4.設定メニューの表示



「EAM-UK500」の各種機能を設定するには、設定メニューを使います。

設定メニューはWindowsのタスクトレイの「EAM-UK500」アイコン()を右クリックすると表示されます。









右クリック

なお、タスクトレイの「EAM-UK500」アイコンは、状態によって以下のように表示されます。

-  (錠前が解放されている状態) ……生成された有効なキーがUSBポートに差し込まれている状態
-  (錠前がロックされている状態) ……生成された有効なキーがUSBポートに差し込まれていない状態

それぞれのメニューの役割については、次の表を参照してください。

スクリーンセーバロックの設定	スクリーンセーバロックのON/OFFの設定を行います。  P.40 「スクリーンセーバロックの設定」
Windows自動ログオン設定	Windows自動ログオンの設定を行います。  P.44 「Windows自動ログオンの設定」
キー設定	キーに関する設定や、外部メディアのロック、自動ログオフなどの設定を行います。  P.127 「キーの設定と管理」
Password Memory	よく使うユーザ名やパスワードを「EAM-UK500」キーに保存する設定を行います。  P.115 「よく使うパスワードの保存」
ファイル管理	暗号化ファイルマネージャを起動します。  P.64 「暗号化ファイルマネージャを使う」
ネットキー	ネットキーツールバーを起動します。  P.92 「ネットキーツールバー」
既定ユーザ	パソコンに差し込まれている「EAM-UK500」キーのユーザ名とシリアルナンバーを表示します。
ヘルプ	ヘルプを表示します。
バージョン情報	バージョン情報を表示します。

第2部

「スクリーンセーバロック」と「Windows自動ログオン」の設定

この部では、「スクリーンセーバロック」と「Windows自動ログオン」について説明します。「スクリーンセーバロック」では、「EAM-UK500」キーを抜くと画面がスクリーンセーバに変わり、マウスやキーボードなどの操作を無効にすることができるようになります。「Windows自動ログオン」では、パソコン起動時に「EAM-UK500」キーを差し込むと、ユーザ名・パスワードなどの入力をすることなく自動的にWindowsのログオンができるようになります。

1.スクリーンセーバロックの設定	P.40
2.Windows自動ログオンの設定	P.44

1.スクリーンセーバロックの設定

スクリーンセーバロックの設定をONにして、「EAM-UK500」キーをパソコンから抜き取ると、専用のスクリーンセーバが起動し、キーボードおよびマウスの操作を無効にします。

キーを差し込むと、スクリーンセーバロックが解除され、作業中の画面に戻ります。

① 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

メモ

キーの生成直後は、スクリーンセーバロックの設定はOFFに設定されています。

スクリーンセーバロックをONにする

① 注意

この設定の後に、キー情報バックアップファイル(.eki形式)を更新する作業を行います。作業を始める前に、保存していたリムーバブルディスクを手元に用意しておいてください。

1. 設定メニューから[スクリーンセーバロックの設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

[スクリーンセーバロックの設定] ダイアログボックスが表示されます。

2. [スクリーンセーバOFF] ボタンをクリックします。



クリック

ボタンをクリックすると表示が[スクリーンセーバON]に変わります。

3. [OK] ボタンをクリックします。

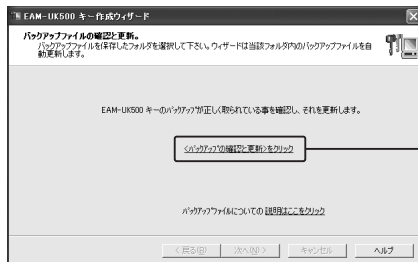
4. キー情報のバックアップを促すダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリック

キー作成ウィザードの「バックアップファイルの確認と更新」が表示されます。

5. <バックアップの確認と更新>をクリック] をクリックします。



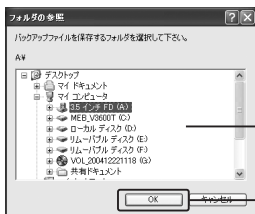
クリック

6. キー生成時にバックアップファイルを保存したリムーバブルディスクをドライブにセットし、[OK] ボタンをクリックします。



クリック

7. バックアップファイルが保存されている場所を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



①場所を指定して

②クリック

8. キー生成時に指定したパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



①入力して

②クリック

9. リムーバブルディスクを取り出し、[OK] ボタンをクリックします。



クリック

10. [OK] ボタンをクリックします。



クリック

[バックアップファイルの確認と更新] 画面に戻ります。

11. [次へ] ボタンをクリックします。

12. [完了] ボタンをクリックします。

これで、スクリーンセーバロックがONに設定されました。「EAM-UK500」キーをパソコンから抜き取ると、自動的にスクリーンセーバが起動します。



❗ 注意

- スクリーンセーバロック中にパソコンがサスペンドモードに入った場合、キーを差し込んでも、スクリーンセーバロックはすぐに解除されません。パソコンがサスペンドモードから復帰するまでお待ちください。
- スクリーンセーバロック中は、キーボードとマウスの操作も無効ですので、[Alt] + [Tab] キーや [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押すなどのタスク切り替えはできません。

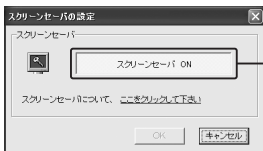
スクリーンセーバロックをOFFにする

1. 設定メニューから[スクリーンセーバロックの設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

[スクリーンセーバロックの設定] ダイアログボックスが表示されます。

2. [スクリーンセーバON] ボタンをクリックします。



ボタンをクリックすると表示が[スクリーンセーバOFF]に変わります。

3. [OK] ボタンをクリックします。

2.Windows自動ログオンの設定

Windows自動ログオンの設定を使うと、「EAM-UK500」キーをパソコンのUSBポートに差し込むだけでユーザ名やパスワードを入力せずに、自動的にWindowsにログオンすることができます。また、キーを差し込まないとログオンできないように設定して、セキュリティを向上させることができます。

メモ

キー生成直後は、Windows自動ログオンの設定はOFFに設定されています。

Windows自動ログオン設定を有効にする

Windows自動ログオンを有効にするための設定を行います。

注意

この設定だけではWindows自動ログオンはONに設定されません。設定をONにする場合は、この後に説明する「自動ログオン設定をONにする」まで設定を行ってください。

参照 P.46 「自動ログオン設定をONにする」

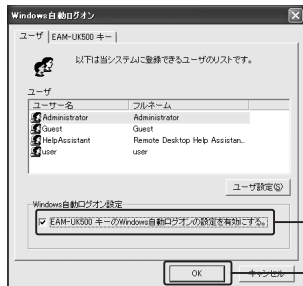
1. 設定メニューから [Windows自動ログオン設定] を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

メモ

[Windows自動ログオン] 画面は、[コントロールパネル] - [Windows auto-logon] を選択しても表示されます。

2. [Windows自動ログオン] 画面で [EAM-UK500キーのWindows自動ログオンを有効にする。] チェックボックスをチェックし、[OK] ボタンをクリックします。



①チェックして

②クリック

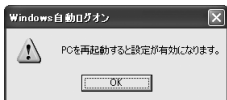
❗ 注意

Windows自動ログオンの設定を有効にすると、以降のWindowsログオン画面が「EAM-UK500」独自の画面に変わります。また、WindowsXPのユーザ簡易切替機能は使用できなくなります。

メモ

Windows98SE/Meには、[ユーザ名とパスワードが必ず有効であること。] チェックボックスがあります。このチェックボックスにチェックすると、以降ログオン時にはユーザ名とパスワードを正しく入力しないとログオンできなくなります。

- 3.再起動を促すメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



クリック

パソコンを再起動してください。

- 4.以降、ログオン時には下記のような画面が表示されます。



5. [Esc] キーを押して、Windowsのログオン画面を表示します。Windowsに設定されているユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

！ 注意

- この時点では、Windows自動ログオンはONに設定されていないため、「EAM-UK500」キーを差し込んで何も反応しません。[Esc] キーを押してWindowsに設定されているユーザ名とパスワードを入力してください。
- Windowsのログオンパスワードを変更されたときは、一度、Windows自動ログオン設定を無効にしてから、再度、Windows自動ログオン設定を有効にしてください。



参照 P.54 「Windows自動ログオン設定を無効にする」

自動ログオン設定をONにする

Windows自動ログオンの設定が有効になると、Windows自動ログオンのON/OFFの設定を行うことができます。

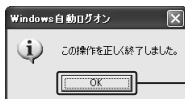
1. [Windows自動ログオン] 画面で[EAM-UK500キー]タブをクリックし、[ON] ボタンをクリックします。



①クリックして

②クリック

2. 設定が有効になったことを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリック

3. [Windows自動ログオン] ダイアログボックスに戻るので、[OK] ボタンをクリックします。

次回起動時から、「EAM-UK500」キーを差し込むとWindowsに自動ログオンできるようになります。

① 注意

この時点では、「EAM-UK500」キーを差し込んでいない状態でも、[Esc] キーを押すと、通常通りユーザ名とパスワードを入力してログオンすることができます。ただし、以下の点にご注意ください。

- ネットワークに接続できなくなることがあります。
- OutlookExpressなどのメールアプリケーションで送受信を行う際に、メールアカウントのパスワード入力を求められることがあります。

メモ

「EAM-UK500」キーをパソコンに差し込む以外の方法ではログオンできないように設定するには、この後の「キーのみログオン設定をONにする」を参照してください。

参照 P.48 「キーのみログオン設定をONにする」

キーのみログオン設定をONにする

「EAM-UK500」キーをパソコンのUSBポートに差し込んだ場合のみ、ログオンが可能になるように設定します。

注意

- この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。
- セーフモード時は「EAM-UK500」のデバイスドライバが読み込まれないため、Windowsのログオンパスワードを設定していない場合、「EAM-UK500」キーがなくてもWindowsへのログオンが可能です。セキュリティの面からWindowsログオンパスワードを設定することをおすすめします。
- Windows自動ログオン設定を有効にしていない場合は、チェックボックスがグレーになっていて、設定することはできません。あらかじめWindows自動ログオンの設定を有効にしてください。

参照 P.44 「Windows自動ログオン設定を有効にする」

- この設定を行うと、[Esc] キーを押してもパスワード入力画面は表示されません。「EAM-UK500」キーの紛失には十分に注意してください。
- この設定の後に、キー情報バックアップファイル(.eki形式)を更新する作業を行います。作業を始める前に、保存していたリムーバブルディスクを手元に用意しておいてください。

1. [Windows自動ログオン] 画面で [EAM-UK500キー] タブをクリックして、[自動登録設定したEAM-UK500キーのみWindowsに登録できます。] チェックボックスをチェックします。



①クリックして

②チェック

2. 確認画面が表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。



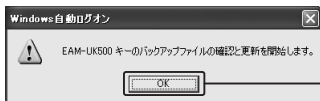
クリック

3. 設定が有効になったことを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリック

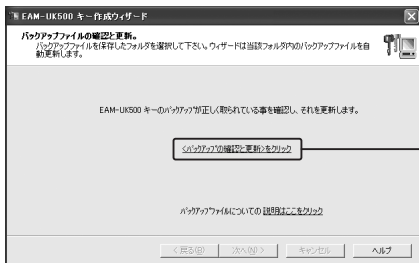
4. キー情報のバックアップを促すダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリック

キー作成ウィザードの「バックアップファイルの確認と更新」が表示されます。

5. [<バックアップの確認と更新> をクリック] をクリックします。



クリック

6. キー生成時にバックアップファイルを保存したリムーバブルディスクをドライブにセットし、[OK] ボタンをクリックします。

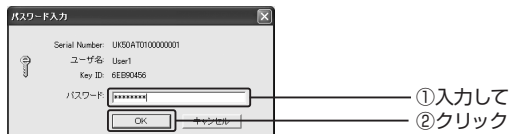


クリック

7. バックアップファイルが保存されている場所を指定し、[OK] ボタンをクリックします。

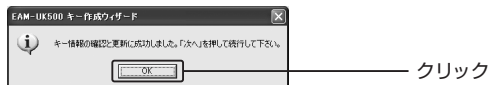


8. キー生成時に指定したパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



9. リムーバブルディスクを取り出し、[OK] ボタンをクリックします。

10. [OK] ボタンをクリックします。



[バックアップファイルの確認と更新] 画面に戻ります。

11. [次へ] ボタンをクリックします。

12. [完了] ボタンをクリックします。

13. [Windows自動ログオン] ダイアログボックスに戻るので、[OK] ボタンをクリックします。

これで、「EAM-UK500」キーを差し込んだ場合のみ、ログオンが可能になりました。

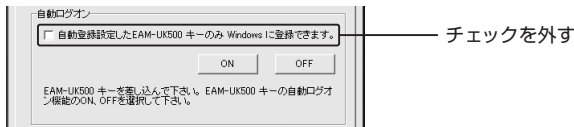
パソコンを再起動すると、以降、ログオン時には以下に示す画面が表示され、たとえ[Esc]キーを押しても、ユーザ名とパスワードによるログオンはできません。「EAM-UK500」キーをUSBポートに差し込むとWindowsに自動ログオンします。



キーのみログオン設定をOFFにする

「EAM-UK500」キーを差し込んでいない状態でも、[Esc]キーを押すと、通常どおりユーザ名とパスワードを入力してログオンできる状態に戻します。

1. [Windows自動ログオン] 画面で[EAM-UK500キー]タブをクリックして、[自動登録設定したEAM-UK500キーのみWindowsに登録できます。]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。



自動ログオン設定をOFFにする

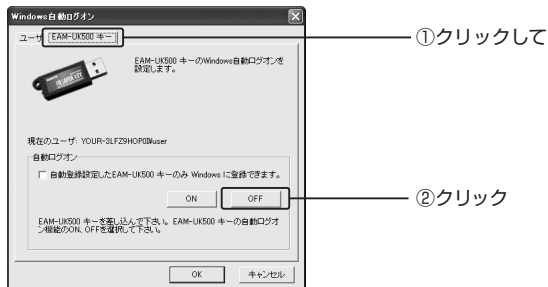
自動ログオン設定をOFFにします。

❗ 注意

この設定だけでは、Windows自動ログオン設定を完全に無効にすることはできません。完全に無効にするためには、この後に説明する「Windows自動ログオン設定を無効にする」をご覧ください。

参照 P.54 「Windows自動ログオン設定を無効にする」

1. [Windows自動ログオン] 画面で[EAM-UK500キー]タブをクリックし、[OFF] ボタンをクリックします。



2. 設定が有効になったことを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

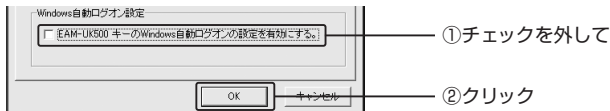


3. [Windows自動ログオン] ダイアログボックスに戻るので、[OK] ボタンをクリックします。

Windows自動ログオン設定を無効にする

Windows自動ログオンの設定を無効にすると、通常のWindowsログオン画面に戻ります。

1. [Windows自動ログオン] 画面で [EAM-UK500キーのWindows自動ログオンを有効にする] チェックボックスのチェックを外し、[OK] ボタンをクリックします。



2. 再起動を促すメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

パソコンを再起動すると、Windows自動ログオン設定が無効になり、通常のWindowsログオン画面に戻ります。

第3部

データの暗号化

「EAM-UK500」は強力な暗号化の機能を持っています。ファイルやフォルダを暗号化することで、機密文書を他のユーザに見られないようにしたり、特定のプログラムを他のユーザに起動させないようにすることもできます。また、暗号化ファイルやフォルダを限定された複数のユーザ間で共有することもできます。








この部では、「EAM-UK500」の暗号化機能について説明します。

1.「EAM-UK500」で実現できる暗号化とは？	P.56
2.「EAM-UK500」による暗号化.....	P.57
3.ネットキーによる暗号化.....	P.85
4.ユーザのグループ分けと管理.....	P.93

1. 「EAM-UK500」で実現できる暗号化とは？

「EAM-UK500」では、パソコン内のファイルやフォルダを暗号化したり、メール送信やLAN環境用にファイルを暗号化したりすることでセキュリティを高めることができます。

それぞれの目的に応じた暗号化の方法と特長は、次の表のようになっています。

目的	暗号化の方法	特長
<ul style="list-style-type: none">パソコン内のファイルやフォルダを他のユーザに開かれない。パソコン内のファイルやフォルダを、勝手に移動されたり削除されたりしたくない。	<p>「EAM-UK500」による暗号化</p> <p> 参照 P.57</p> <p> メモ</p> <p>「EAM-UK500」による暗号化について説明しているタイトルの右横に</p> <p><small>EAM-UK500</small></p> <p> を表示しています。</p>	<p>キーがないとファイルやフォルダを開くことができません。移動やコピー、削除もできなくなります。テキストファイルや画像ファイルなどの各種文書ファイル、プログラムファイル、フォルダなどを暗号化することができます。</p> <p>また、パソコンを複数のユーザが使用している場合は、ユーザごとにアクセス権を設定することができます。</p> <p> 参照 P.78 「EAM-UK500」による暗号化ファイルの共有</p>
<ul style="list-style-type: none">電子メールに添付したファイルを特定のユーザ以外に読み取られないように送信したい。	<p>「ネットキー」による暗号化</p> <p> 参照 P.85</p> <p> メモ</p> <p>「ネットキー」による暗号化について説明しているタイトルの右横に</p> <p><small>ネットキー</small></p> <p> を表示しています。</p>	<p>公開鍵暗号方式を利用してファイルを暗号化するので、受信したユーザがアクセス権を持っていれば、自分のキーを使って開くことができます。テキストファイルや画像ファイルなどの文書ファイル、プログラムファイルなどを暗号化することができます（フォルダ単位の暗号化はできません）。</p>
<ul style="list-style-type: none">LANやインターネット上にあるファイルを特定のユーザ以外に読み取られないように保管したい。		<p>公開鍵暗号方式を利用してファイルを暗号化するので、アクセス権を持つユーザだけが、自分のキーを使って開くことができます。テキストファイルや画像ファイルなどの文書ファイル、プログラムファイルなどを暗号化することができます（フォルダ単位の暗号化はできません）。</p>

2. 「EAM-UK500」による暗号化

パソコン内のファイルやフォルダを暗号化するには、「EAM-UK500」による暗号化を行います。必ずパソコンに「EAM-UK500」キーを差し込んでから行ってください。

❗ 注意

- ファイルやフォルダの暗号化および暗号解除には、キー生成済みの「EAM-UK500」キーが必要です。万一、キーを紛失したり、盗難にあったりした場合には、暗号化ファイルの操作が行えなくなります。「EAM-UK500」キーの紛失には十分注意してください。

メモ

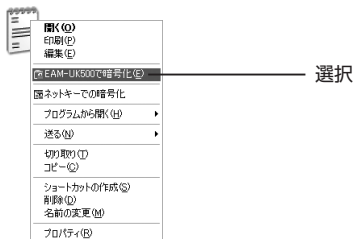
「EAM-UK500」による暗号化で暗号化したファイルやフォルダは暗号化したパソコン内で有効です。異なるパソコンや外部メディアなどに暗号化ファイルを移動やコピーしたい場合は、「ネットキーによる暗号化」で暗号化を行ってください。

参照 P.85 「ネットキーによる暗号化」

ファイルを暗号化する



1. 暗号化したいファイルやフォルダを右クリックして、「EAM-UK500で暗号化」を選択します。



ファイルが暗号化されます。Windows2000/XPでは、暗号化されたファイルやフォルダのアイコンの左上に錠前のミニアイコンが追加されます。

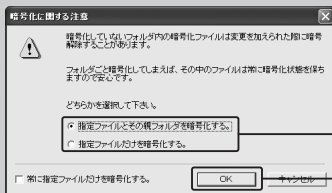


① 注意

- OSの仕様上、Windows98SE/Meでは暗号化されたファイルやフォルダのアイコンの左上に錠前のミニアイコンは追加されません。どのファイルやフォルダが暗号化されているかは「暗号化ファイルマネージャ」からご確認ください。

参照 P.64 「暗号化ファイルマネージャを使う」

- [EAM-UK500で暗号化]を選択後、[暗号化に関する注意]ダイアログボックスが表示される場合があります。目的のファイルだけを暗号化する場合には[指定ファイルだけを暗号化する。]を、このファイルが保存されているフォルダごと暗号化したい場合には[指定ファイルとその親フォルダを暗号化する。]を選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。



① 選択して

② クリック

- 下記のファイルやフォルダの暗号化を行うと障害を起こす可能性があるので、暗号化しないでください。

- 隠しファイル
- Windowsシステムフォルダおよびその中にあるシステムファイル
- Microsoft Outlook/OutlookExpressのアドレス帳、カレンダー、電子メールのファイル

上記以外のファイルやフォルダを暗号化する場合でも、事前にファイルやフォルダをコピーして、暗号化や暗号解除の検証を行った上でご使用ください。

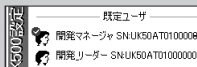
- 読み取り専用ファイルは暗号化できません。暗号化しようとすると、警告やメッセージが表示されます。

! 注意

- デスクトップ上のファイルを暗号化する際、[指定ファイルとその親フォルダを暗号化する。]を選択して[OK]ボタンをクリックすると、デスクトップ全体が暗号化されてしまい、正常にログオンできなくなるおそれがあるのでご注意ください。もし、デスクトップを暗号化してしまった場合は、後述の「暗号化ファイルマネージャ」を使って暗号解除してください。

参照 P.64 「暗号化ファイルマネージャを使う」

- Windows98SE/Meでは、デスクトップ上のファイルやフォルダを暗号化すると、「Windowsフォルダ内のファイルを暗号化するとエラーになるおそれがあります。このまま続けますか?」というメッセージが表示されます。これは、Windows98SE/Meのデスクトップが、Windowsフォルダ内に属しているためです。ほとんどは暗号化しても問題ありませんが、できるだけ「マイドキュメント」などWindowsフォルダ外で暗号化されることをおすすめします。
- パソコンに複数の「EAM-UK500」キーが差し込まれているときは、オーナーを確認してください。確認方法は、タスクトレイの「EAM-UK500」アイコンを右クリックして、EAM-UK500設定メニューを表示させます。「既定ユーザ」に表示されているユーザの顔アイコンの左上にチェックマークがあるユーザが「オーナー」です。別のユーザをクリックすると、そのユーザがオーナーに変わります。



チェックマークアイコンが付いているユーザがオーナーとなる

暗号書庫ファイルに対するアクセス権を設定できるのは、そのファイルを暗号化した「オーナー」に限られます。管理者キーでもそれを変更することはできません。

- Windows2000/XPのNTFSボリュームでは、Access、MP3、AVIの暗号化ファイル、およびこれらのファイルを含む暗号化フォルダに対して、Windows2000/XPに付属の圧縮ツールを使って圧縮をかけないでください。これらのファイル、フォルダを破壊してしまいます。
- Windows2000/XPをお使いの場合、画像ファイルは、暗号化されていてもWindowsに組み込まれたビューア機能によって縮小表示が可能となりますが、画像ファイルを暗号化したフォルダに保管すれば、縮小表示を見られる心配はなくなります。したがって、暗号化したい画像は暗号化フォルダに保管することをおすすめします。

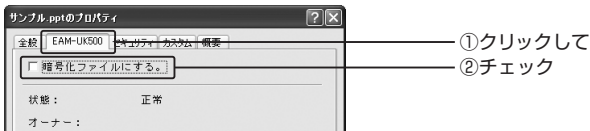
参照 P.61 「フォルダを暗号化する」

❗ 注意

- 暗号化ファイルを完全に削除するには、暗号化に使用した「EAM-UK500」キーがパソコンに差し込まれている必要があります。暗号化ファイルを「ごみ箱」に移動させた場合、「EAM-UK500」キーを接続せずに、「ごみ箱を空にする」を実行しても、ファイルはごみ箱に残ってしまうので注意してください。

メモ

- プログラムファイル（例えば、exeファイルのような実行ファイル）を暗号化すると、他のユーザがプログラムを実行するのを制限することができます。
- ファイルのプロパティから暗号化と暗号解除をすることもできます。ファイルを右クリックして「プロパティ」を選択し、「EAM-UK500」タブをクリックして、「暗号化ファイルにする。」チェックボックスをチェックすると暗号化され、チェックを外すと暗号解除されます。



暗号化されたファイルを開く

「EAM-UK500」で暗号化されたファイルは、「EAM-UK500」キー（オーナーキー）または、後述する暗号化ファイルにアクセス可能なキー（一般ユーザキー）をパソコンに差し込んだ状態であれば、通常のファイルと同様に開くことができます。上記のキーをパソコンに差し込んでいないと、暗号が解除されないため、開くことはできません。

参照 P.78 「EAM-UK500」による暗号化ファイルの共有

❗ 注意

暗号化ファイルをコピーすると、コピー先のファイルの暗号は解除されます。



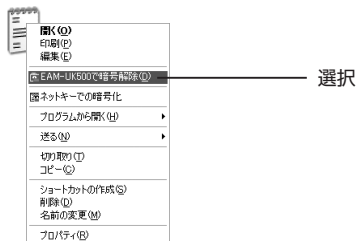
ファイルの暗号を解除する

！ 注意

暗号を解除するには、ファイルを暗号化したときの「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んでおく必要があります。暗号化ファイルのオーナーは、ファイルのプロパティ画面や暗号化ファイルマネージャで確認することができます。

参照 P.64 「暗号化ファイルマネージャを使う」

1. 暗号を解除したいファイルやフォルダを右クリックして、[EAM-UK500で暗号解除]を選択します。

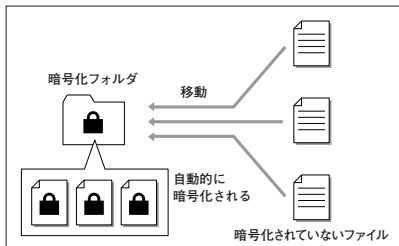


ファイルの暗号が解除されます。

フォルダを暗号化する



フォルダの暗号化も、ファイルの暗号化と手順は同じです。フォルダを暗号化した後に入れたファイルはすべて自動的に暗号化されます。



1. 暗号化したいフォルダを右クリックして、[EAM-UK500で暗号化] を選択します。
2. そのフォルダのみ暗号化するか、サブフォルダも含めて暗号化するかを選択して、[OK] ボタンをクリックします。



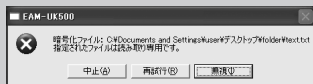
① 選択して

② クリック

選択した内容に従って、フォルダが暗号化されます。

① 注意

フォルダ内に、すでに他のユーザによって暗号化されたファイルや、読み取り専用ファイルなど、暗号化・暗号解除できないファイルが存在している場合、以下に示すダイアログボックスが表示されます。



ユーザは次のいずれかを選択することができます。

中止	暗号化を中止します。
再試行	再び暗号化を試みます。
無視	暗号化できないファイルは無視して、次のファイルへの操作を続けます。

また、隠しファイルやWindowsのシステムファイルを暗号化すると障害を起こすおそれがあるので、暗号化しないでください。

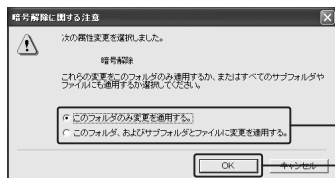
注意

- Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint、Accessなど) のファイルを「上書き保存」すると、OSによって自動的に暗号解除されることがあります。これは、上書きの際、元のファイルを削除し新しいファイルに書き換えるように設計されているためです。解決策としては、暗号化フォルダの中にファイルを保存しておけば常に暗号化状態に保つことができます。
- 暗号化ファイルを、別名で保存したり、別のフォルダに移動したり、別のドライブにコピーしたりすると、保存先や移動先が暗号化フォルダでない場合、暗号が解除されてしまいます。しかし、保存先、コピー先、移動先を暗号化フォルダにしておけば、自動的に暗号化されます。

**フォルダの暗号を解除する**

フォルダの暗号解除も、ファイルの暗号解除と手順は同じです。ただし、目的のフォルダのみ暗号解除するのか、サブフォルダも含めて暗号解除するのかを選択することができます。

1. 暗号解除したいフォルダを右クリックして、[EAM-UK500で暗号解除] を選択します。
2. このフォルダのみ暗号解除するか、サブフォルダも含めて暗号解除するかを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



① 選択して

② クリック

フォルダの暗号が解除されます。



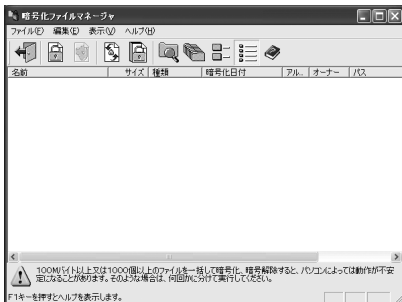
暗号化ファイルマネージャを使う

「EAM-UK500」のユーティリティプログラム「暗号化ファイルマネージャ」を利用すると、複数ファイルの暗号化・暗号解除などが効率的に行えます。また、現在暗号化されているファイルを、保存されている場所に関係なく、一覧で表示することができます。暗号化したファイルをどこに保存したかわからなくなった時に、すぐに見つけ出すことができます。











1. 設定メニューから「ファイル管理」を選択します。

 参照 P.37 「設定メニューの表示」

「暗号化ファイルマネージャ」が起動します。



それぞれのアイコンの機能は、次の表のようになっています。

アイコン	名 前	動 作
	閉じる	暗号化ファイルマネージャを終了します。
	暗号化	ファイルを暗号化します。クリックして、ダイアログボックスから暗号化したいファイルを選択します。
	暗号解除	暗号を解除します。暗号化ファイルマネージャの一覧からファイルやフォルダを選択しておき、このボタンをクリックすると暗号が解除されます。
	更 新	暗号化ファイルやフォルダの表示を最新の情報に更新します。
	すべて表示	暗号化フォルダの中に暗号化ファイルがある場合、クリックすると、暗号化フォルダに保管されている暗号化ファイルも表示します。もう1度クリックすると、暗号化フォルダのみ表示します。
	大きいアイコン	暗号化ファイルやフォルダを大きいアイコンで表示します。
	小さいアイコン	暗号化ファイルやフォルダを小さいアイコンで表示します。
	一 覧	暗号化ファイルやフォルダを、ファイル名のみ一列に表示します。
	詳 細	暗号化ファイルやフォルダの名前、サイズ、種類、暗号化日付、暗号アルゴリズム、オーナー、パスを表示します。
	ヘルプ	ヘルプを表示します。



暗号化ファイルマネージャを使って暗号化する

1. 暗号化ファイルマネージャのツールバーにある[暗号化]アイコンをクリックします。



クリック

2. 暗号化したいファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。



①ファイルを選択して

②クリック

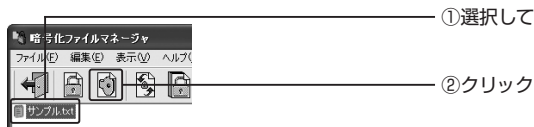
ファイルが暗号化されます。

メモ

暗号化ファイルマネージャの画面に、ファイルやフォルダのアイコンをドラッグ&ドロップして暗号化することもできます。

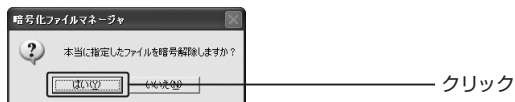


1. 暗号化ファイルマネージャの一覧から暗号解除したいファイルやフォルダを選択し、ツールバーから[暗号解除]ボタンをクリックします。



暗号解除する前に確認のダイアログが表示されます。

2. [はい] ボタンをクリックします。



ファイルの暗号が解除されます。

暗号フォルダを解除する場合は、このあと、フォルダのみ暗号解除するか、サブフォルダも含めて暗号解除するかを選択して[OK]ボタンをクリックします。

❗ 注意

- 暗号化ファイルやフォルダを完全に削除するには、暗号化に使用した「EAM-UK500」キー（オーナーキー）がパソコンに差し込まれている必要があります。
- 暗号化ファイルやフォルダを「ごみ箱」に移動させた場合、「EAM-UK500」キーを接続せずに「ごみ箱を空にする」を実行しても、ごみ箱に残ってしまうので注意してください。



暗号化ファイルやフォルダを共有するには？

「EAM-UK500」で作成する暗号化ファイルは、他の「EAM-UK500」ユーザのユーザ情報を追加することで、複数のユーザ間で共有することができます。暗号化ファイルに共有したいユーザを追加するためには、事前に、共有するユーザ間でユーザ情報ファイル(.epk形式)を交換しておく必要があります。ユーザ情報ファイルの交換には、ユーザ情報ファイルのエクスポートやインポートという操作を行います。

暗号化ファイルやフォルダを共有するための手順は次のようになります。

●自分が作成した暗号化ファイルやフォルダを、選択したユーザが暗号解除できるようにするための手順

1.他のユーザのユーザ情報をインポートする

「EAM-UK500」ユーザのユーザ情報ファイル(.epk形式)を入手する。

参照 P.70 「ユーザ情報をエクスポートする」

または

「EAM-UK500」ユーザのキーを用意する。

自分のパソコンに、「EAM-UK500」ユーザの情報をインポート（登録）する。

参照 P.71 「EAM-UK500」キーからユーザ情報をインポートする」

参照 P.75 「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルからユーザ情報をインポートする」

2.暗号化ファイルやフォルダを作成する

「EAM-UK500」による暗号化

ユーザリストから選択

参照 P.79

ユーザグループから選択

参照 P.106

「ネットキー」による暗号化
(フォルダ単位の暗号化はできません)

ユーザリストから選択

参照 P.89

ユーザグループから選択

参照 P.109

●他のユーザが作成した暗号化ファイルやフォルダを、自分が暗号解除できるようにするための手順

1.自分のユーザ情報をインポートしてもらう


自分のユーザ情報ファイル(.epk形式)をエクスポート(作成)する。


 参照 P.70 「ユーザ情報をエクスポートする」

または

自分のキーを用意する。

暗号化ファイルやフォルダを作成するユーザのパソコンに、自分のユーザ情報をインポート(登録)してもらう。

 参照 P.71 「「EAM-UK500」キーからユーザ情報をインポートする」

 参照 P.75 「「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルからユーザ情報をインポートする」

2.暗号化されたファイルやフォルダを解除する

「EAM-UK500」を使って暗号化されたファイルやフォルダ

自分のキーをパソコンに差し込み、暗号化ファイルやフォルダをダブルクリックする。

 参照 P.60


「ネットキー」を使って暗号化されたファイル

自分のキーをパソコンに差し込み、暗号化ファイルをダブルクリックする。

 参照 P.91

メモ

「ネットキー」による暗号化については、以下のページを参照してください。

 参照 P.85 「ネットキーによる暗号化」



ユーザ情報をエクスポートする

ユーザリスト上にある自分のユーザ情報などをエクスポートしてディスクに保存します。エクスポートしたユーザ情報は、他のユーザに渡してインポートして行うことができます。

参照 P.75 「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルからユーザ情報をインポートする

！ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから [キー設定] を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. [ユーザ管理] タブをクリックして、ユーザ情報をエクスポートしたいユーザを選択し、[エクスポート] ボタンをクリックします。



3. [ファイル名] テキストボックスにファイル名を入力して、[保存] ボタンをクリックします。



ユーザ情報は指定した場所に、ユーザ情報ファイル(.epk形式)として保存されます。

メモ

ユーザ情報を他の人に送信したい場合は、「名前を付けて保存」画面の一番下にある「メールで送信」チェックボックスをチェックし、「保存」ボタンをクリックすると、ユーザ情報ファイル(.epk形式)が添付された状態で、電子メールアプリケーションが起動します。

「EAM-UK500」キーからユーザ情報をインポートする



「EAM-UK500」ユーザのキーをパソコンに差し込んで、そのキーのユーザ情報をインポートすることができます。

1. 「EAM-UK500」ユーザのキーをパソコンのUSBポートに差し込みます。

「ユーザインポート」ダイアログボックスが表示されます。

2. [はい] ボタンをクリックします。

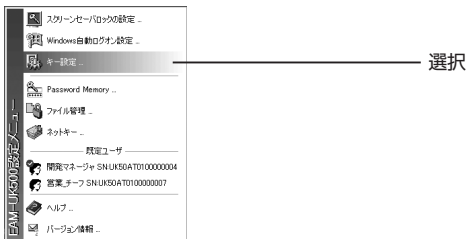


ユーザ情報がインポートされます。

なお、すでに「EAM-UK500」ユーザのキーがパソコンに差し込まれている場合などは、次の方法でインポートすることもできます。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

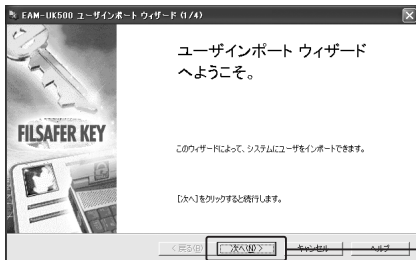


2. [ユーザ管理] タブをクリックして、[インポート] ボタンをクリックします。

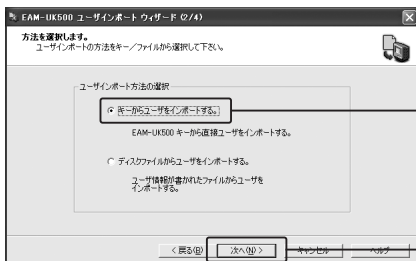


ユーザインポートウィザードが起動します。

3. [次へ] ボタンをクリックします。

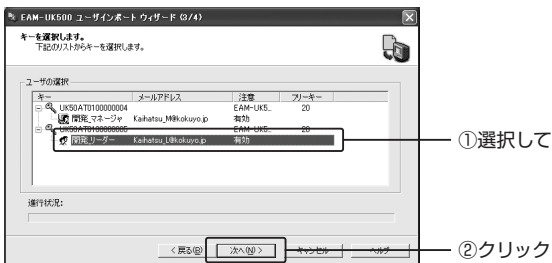


4. [キーからユーザをインポートする] オプションボタンを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



現在、パソコンに接続されている「EAM-UK500」キーとユーザ情報が一覧表示されます。

5. 共有したいユーザ名を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



6. [完了] ボタンをクリックします。



「EAM-UK500キー設定」画面の[ユーザ管理]タブを表示すると、新しいユーザがユーザリストの中に追加されています。



「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルから ユーザ情報をインポートする

EAM-UK500 ネットキー



ディスク等に保存されたユーザ情報ファイル(.epk形式)から、ユーザ情報をインポートすることもできます。

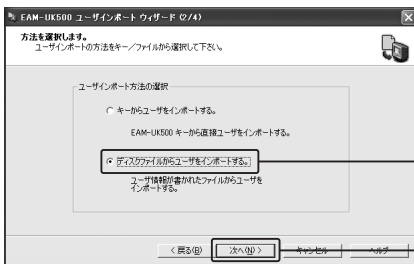
1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. [ユーザ管理] タブをクリックして、[インポート] ボタンをクリックします。

3. [次へ] ボタンをクリックします。

4. [ディスクファイルからユーザをインポートする。] チェックボックスをチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



① 選択して

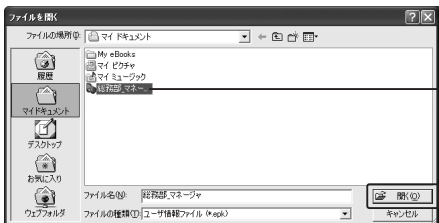
② クリック

5. 「参照」ボタンをクリックします。



クリック

6. インポートしたい情報ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。



①選択して

②クリック

7. [完了]をクリックします。

メモ

ユーザ情報ファイル(.epk形式)をダブルクリックして、ユーザ情報をインポートすることもできます。



ユーザ情報を削除する

すでにユーザリストに追加されたユーザを削除します。

❗ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

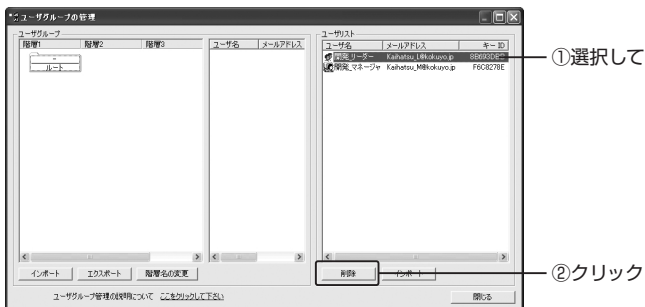
1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. [ユーザ管理] タブをクリックして、[変更] ボタンをクリックします。



3. [ユーザリスト] リストボックスから削除したいユーザを選択し、[削除] ボタンをクリックします。



メモ

[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながらユーザを選択すると、複数のユーザを一度に選ぶことができます。

4. 確認メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてください。



ユーザが削除されます。

「EAM-UK500」による暗号化ファイルの共有



「EAM-UK500」で暗号化したファイルに、インポートしたユーザ情報の中から共有したいユーザを選択して登録することで、暗号化ファイルのオーナー以外にもアクセスを可能にすることができます。

また、共有するユーザごとに、より細かいアクセス権を設定することもできます。暗号化ファイルに、他のユーザを登録してアクセス権を設定する手順は次のようになります。

インポートしたユーザの中から、共有したいユーザを暗号化ファイルに選択し、登録する(アクセス可能になる)

参照 P.79 「暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する」



登録したユーザごとに、より細かいアクセス権を設定する

参照 P.84 「ユーザごとのアクセス権を設定する」



暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する

「EAM-UK500」で暗号化したファイルに、アクセスを可能にするユーザを追加します。

1. 「EAM-UK500」キー(オーナーキー)をパソコンに差し込んだ状態で、暗号化ファイルを右クリックします。
2. ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。
3. ファイルのプロパティダイアログボックスで、[EAM-UK500キー]タブをクリックして、[詳細]ボタンをクリックします。



①クリックして

②クリック

4. [追加] ボタンをクリックします。



5. 追加したいユーザ名を選択して、[OK] ボタンをクリックします。



① 注意

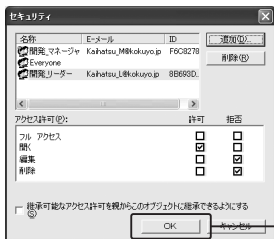
暗号化ファイルにアクセス可能なユーザは、15ユーザまで追加できます。

メモ

[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながらユーザを選択すると、複数のユーザを一度に選択することができます。

[ユーザの追加] ダイアログボックスが閉じ、ユーザリストに選択したユーザ名が追加されます。

6. [OK] ボタンをクリックして、[セキュリティ] ダイアログボックスを閉じます。



クリック

7. プロパティダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックして閉じます。

メモ

暗号化フォルダについても同様の手順で行うことができます。

暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを削除する



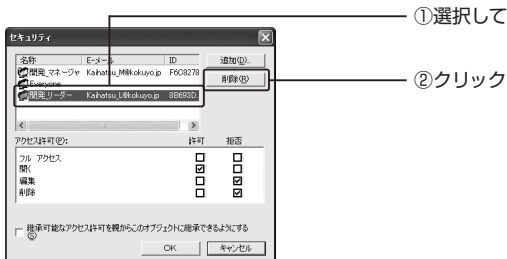
暗号化ファイルからアクセス可能なユーザを削除します。

1. 「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んだ状態で、暗号化ファイルを右クリックします。

2. ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。

3. ファイルのプロパティダイアログボックスで、[EAM-UK500キー] タブをクリックして、[詳細] ボタンをクリックします。

4. 削除したいユーザ名を選択して、[削除] ボタンをクリックします。



選択したユーザ名がファイルから削除されます。

5. [OK] ボタンをクリックして、[セキュリティ] ダイアログボックスを閉じます。

6. プロパティダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックして閉じます。



暗号化フォルダについても同様の手順で行うことができます。

EAM-UJ500 ネットキー



アクセス権の種類

暗号化ファイルやフォルダにアクセス可能になったユーザに対し、アクセス権を設定することができます。

暗号化ファイルに設定可能なアクセス権は、次の表に示す4種類です。

アクセス権	内容
フルアクセス	すべてのアクセスが許可されます。
開く	ファイルを開くことができます。「編集」や「削除」の権限はありません。
編集	ファイルを開き、編集後、同じファイルに上書き保存することができます。ただし、「削除」の権限はありません。
削除	ファイルを削除することができます。「開く」「編集」の権限はありません。



アクセス権を設定するユーザの種類

「EAM-UK500」で暗号化したファイルにアクセス権を設定する際、「オーナー」「一般ユーザ」「リストユーザ」という3つのタイプのユーザを知っておく必要があります。

「オーナー」とは、ファイルやフォルダを暗号化したユーザのことです。「一般ユーザ」とは、暗号化ファイルやフォルダにアクセス可能になったユーザのことです。「リストユーザ」とは、インポートしたすべてのユーザのことです。

オーナーは、リストユーザと一般ユーザに対してアクセス権を設定することができます。それぞれのユーザに設定可能なアクセス権を次の表に示します。

アクセス権	オーナー	一般ユーザ	リストユーザ
フルアクセス	○	オーナーが設定	×
開く	○	オーナーが設定	×
編集	○	オーナーが設定	×
削除	○	オーナーが設定	オーナーが設定

オーナーは、暗号化ファイルや暗号化フォルダに対して、すべての操作が行える権限を持っています。一般ユーザに対するアクセス権は、「フルアクセス」「開く」「編集」「削除」など、細かく設定することができます。リストユーザに対するアクセス権は、オーナーが設定した場合に限り、ファイルやフォルダの削除のみが認められます。

❗ 注意

「開く」権限は上書き保存をすることはできませんが、開いたファイルをアプリケーションの「名前を付けて保存」などのコマンドで、暗号化されていない別のファイルとして保存することができます。つまり、「開く」権限を持つユーザなら誰でも、暗号化されていないコピーを作成できるということになります。それぞれの権限を与えるときは、これらの点に注意してください。



ユーザごとのアクセス権を設定する

ユーザごとのアクセス権を設定します。設定できるのは一般ユーザの各種権限と、リストユーザの「削除」権限です。

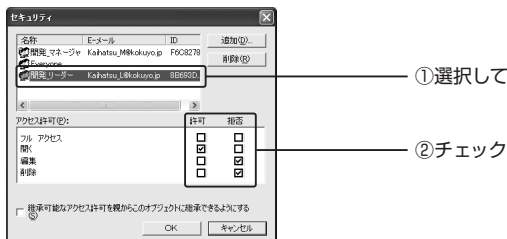
1. 「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んだ状態で、暗号化ファイルを右クリックします。

2. ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。

3. ファイルのプロパティダイアログボックスで、[EAM-UK500キー] タブをクリックして、[詳細] ボタンをクリックします。

[セキュリティ] ダイアログボックスが表示されます。

4. アクセス権を設定したいユーザ名をクリックして選択して、それぞれのアクセス権の [許可] または [拒否] チェックボックスをチェックします。



メモ

暗号化フォルダの場合、ここで [継承可能なアクセス許可を親からこのオブジェクトに継承できるようにする] チェックボックスをチェックしておく、この暗号化フォルダに含まれているすべてのサブフォルダに対して、このフォルダと同じ設定が適用されます。チェックをしない場合には、たとえこのフォルダに一定のアクセス権を与えた場合でも、サブフォルダに同じ権限は与えられません。

5. [OK] ボタンをクリックして、[セキュリティ] ダイアログボックスを閉じます。

3. ネットキーによる暗号化

電子メールに添付したファイルや、LANまたはインターネット上にあるファイル
を特定のユーザ以外に読み取られないようにするには、ネットキーという機能を
使います。

EAM-LJK500 ネットキー

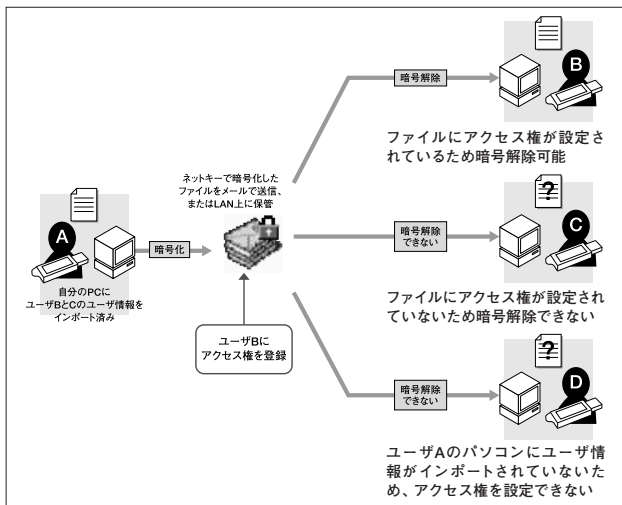


ネットキーについて

ネットキーを利用するためには、「EAM-UK500」ユーザのユーザ情報ファイル
(.epk形式)を入手して自分のパソコンにインポート(登録)したり、自分のユーザ
情報ファイルをエクスポート(作成)して他のユーザのパソコンに登録してもら
う必要があります。

参照 P.68「暗号化ファイルやフォルダを共有するには?」

ネットキーでファイルを暗号化するとき、アクセス可能なユーザを選択し登録す
ると、電子メールで暗号化ファイルを添付したり、LANやインターネット上に暗
号化ファイルを保管しても、登録したユーザしか開くことができなくなり、セキ
ュリティを高めることができます。



❗ 注意

ネットキーによる暗号化は、ファイル単位で行います。フォルダ単位で暗号化することはできませんが、フォルダを圧縮ソフトなどで圧縮すれば、ネットキーによる暗号化は可能になります。

EAM-UK500 ネットキー



ネットキーを利用してファイルを暗号書庫化する

ネットキーを使って暗号書庫ファイルを作成します。

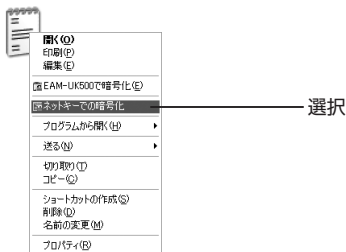
❗ 注意

ファイルの暗号書庫化および暗号解除には、キー生成済みの「EAM-UK500」キーが必要です。万一、キーを紛失したり盗難にあったりした場合は、暗号書庫ファイルの操作が行えなくなります。「EAM-UK500」キーの紛失には十分注意してください。

メモ

ネットキーで作成した暗号化ファイルについては、「EAM-UK500」で暗号化したファイルと区別するために「暗号書庫ファイル」と呼んでいます。

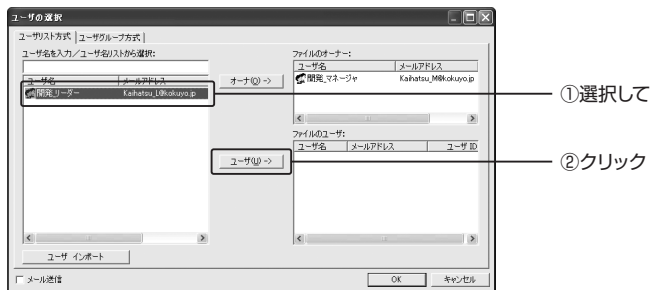
1. 暗号化したいファイルを右クリックして、[ネットキーでの暗号化]を選択します。



[ユーザの選択]画面が表示されます。[ファイルのオーナー]リストボックスにはオーナーのユーザ名が表示されます。

[ユーザ名リストから選択]リストボックスには、ユーザ情報ファイル(.epk形式)をインポートしたユーザが一覧表示されます。

2. 暗号書庫ファイルを共有したいユーザを左側の [ユーザ名リストから選択] リストボックスで選択して、[ユーザ->] ボタンをクリックします。



選択したユーザが右下の [ファイルのユーザ] リストボックスに表示されます。同様の手順で、[ファイルのユーザ] リストボックスに追加していきます。

メモ

- [ユーザ名リストから選択] リストボックスでは、[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながらユーザ名をクリックすると、複数のユーザを一度に選択することができます。選択を取りやめるときは、ユーザ名をもう一度クリックします。
- ユーザグループを使って複数のユーザを一括して追加することもできます。詳しくは以下のページを参照してください。

参照 P.93 「ユーザのグループ分けと管理」

- [ファイルのユーザ] リストボックスに追加した後、追加を取りやめたいときは、ユーザを選択して [Delete] キーを押します。

3.共有したいユーザを「ファイルのユーザ」リストボックスに追加して、「OK」ボタンをクリックします。

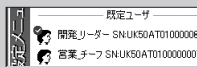
元のファイルの保存場所と同じ場所に暗号書庫ファイル(.nkf形式)が作成されます。



暗号書庫ファイルは拡張子が.nkfになります。この暗号書庫ファイルは、電子メールに添付して送信したり、共有フォルダに置いたりして、「ファイルのユーザ」リストに追加したユーザと共有することができます。

❗ 注意

パソコンに複数の「EAM-UK500」キーが差し込まれているときは、オーナーを確認してください。確認方法は、タスクトレイの「EAM-UK500」アイコンを右クリックして、EAM-UK500設定メニューを表示させます。「既定ユーザ」に表示されているユーザの顔アイコンの左上にチェックマークがあるユーザが「オーナー」です。別のユーザをクリックすると、そのユーザがオーナーに変わります。



———オーナー

暗号書庫ファイルに対するアクセス権を設定できるのは、そのファイルを暗号化した「オーナー」に限られます。管理者キーでもそれを変更することはできません。

暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加する

暗号書庫ファイルに、アクセスを可能にするユーザを追加します。

❗ 注意

暗号書庫ファイルに対するアクセス権を設定できるのは、そのファイルを暗号化した「オーナー」に限られます。管理者キーでもそれを変更することはできません。

1. 「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んだ状態で、暗号書庫ファイルを右クリックします。
2. ショートカットメニューから[プロパティ]を選択します。
3. ファイルのプロパティダイアログボックスで[ネットキー]タブをクリックして、「追加」ボタンをクリックします。



① クリックして

② クリック

[ユーザの選択] 画面が表示されます。

4. 左側のユーザリストから追加したいユーザを選択して、[ユーザ] ボタンをクリックします。
5. [OK] ボタンをクリックすると、ファイルのプロパティダイアログボックスに戻ります。

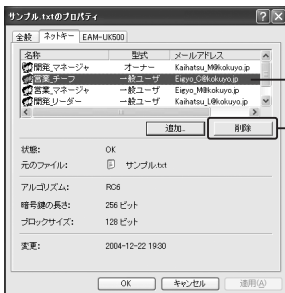
リストボックスに選択したユーザ名が追加されます。



暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを削除する

暗号書庫ファイルから、アクセス可能なユーザを削除します。

1. 「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んだ状態で、暗号化ファイルを右クリックします。
2. ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。
3. ファイルのプロパティダイアログボックスで「ネットキー」タブをクリックします。
4. リストボックスから削除したいユーザを選択して、「削除」ボタンをクリックします。



① 選択して

② クリック

5. 確認のダイアログボックスが表示されます。削除してよろしければ「はい」ボタンをクリックします。



クリック

ファイルのプロパティダイアログボックスに戻ります。



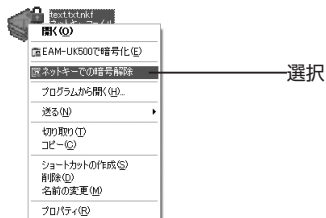
暗号書庫ファイルの暗号を解除する

ネットキーで暗号化された暗号書庫ファイルの暗号を解除します。

❗ 注意

暗号を解除するには、暗号書庫ファイルを作成した「EAM-UK500」キー（オーナーキー）または暗号書庫ファイルにアクセス可能なキー（一般ユーザーキー）をパソコンに差し込んでおく必要があります。

1. メールの添付ファイルとして受信した暗号書庫ファイルは事前に、ハードディスクなどに保存します。
2. 暗号書庫ファイルを右クリックして、[ネットキーでの暗号解除]を選択します。



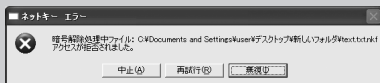
暗号書庫ファイルの暗号を解除します。暗号書庫ファイルと同じ場所に元のファイルが保存されます。

メモ

- エクスプローラやデスクトップ上で、暗号書庫ファイルをダブルクリックして暗号解除することもできます。暗号解除されたファイルは、暗号書庫ファイルと同じ場所に展開されます。
- 暗号書庫ファイルを解除しても、暗号書庫ファイルはそのまま残ります。不要な場合は、通常ファイルと同様に削除できます。

❗ 注意

- 暗号解除されたファイルは、対応する「EAM-UK500」キーがUSBポートに接続されていない場合でも、開く・編集・削除といった通常の操作が行えます。
- 対応する「EAM-UK500」キーをパソコンに接続せずに暗号書庫ファイルを開こうとしても、以下に示す警告メッセージが表示され、暗号書庫ファイルを開くことはできません。




EAM-UK500 ネットキー



ネットキーツールバー

複数の暗号書庫ファイルを作成するときは、ネットキーツールバーを使うと便利です。










1. 設定メニューから[ネットキー]を選択します。

 参照 P.37 「設定メニューの表示」

ネットキーツールバーが表示されます。



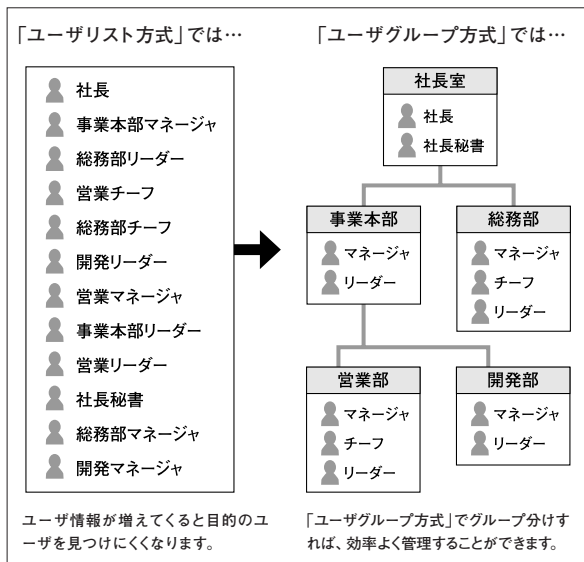
それぞれのアイコンの機能は、次の表のようになっています。

アイコン	名 前	動 作
	終 了	ネットキーツールバーを閉じます。
	暗号化	ファイル選択ダイアログボックスが表示され、そこで選択したファイルの暗号書庫ファイルを作成します。  参照 P.86
	暗号解除	ファイル選択ダイアログボックスが表示され、そこで選択した暗号書庫ファイルの暗号を解除します。  参照 P.91
	キー管理	[EAM-UK500キー設定]画面を表示します。  参照 P.127
	バージョン情報	ネットキーツールバーのバージョンを表示します。
	ヘルプ	[EAM-UK500]のヘルプを表示します。

4. ユーザのグループ分けと管理

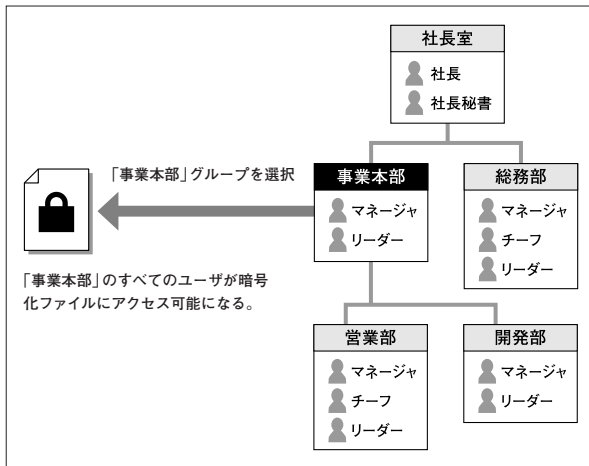
「EAM-UK500」では、他のユーザ情報をインポートすることで、「EAM-UK500」の暗号化によるアクセス権の設定やネットキーの利用など、使い方が広がります。しかし、活用が進み、インポートしたユーザ情報が増えてくると、「ユーザリスト方式」からでは目的のユーザを見つけにくくなってきます。

そこで「EAM-UK500」では、インポートしたユーザ情報をグループ分けして管理することができるようになってきました（「ユーザグループ方式」）。ユーザ情報をグループ分けしておくことで、目的のユーザを素早く見つけたり、暗号化ファイルや暗号書庫ファイルにグループ単位でユーザを追加することができます。



「ユーザグループ方式」では、[EAM-UK500]キーのユーザを、このような組織の構造を反映した形でわかりやすく管理することができます。

たとえば、「事業本部」に所属するユーザだけに開くことができる暗号化ファイルを作成する場合、個々のユーザを選択しなくても、「事業本部」というグループを選択するだけで、所属するすべてのユーザを一括して選択することができます。





ユーザグループのフォルダを作成する

ユーザグループを作成します。ここでは、前ページで説明した組織図を例にとりて作成していきます。

❗ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」



選択

2. [ユーザ管理] タブをクリックして、[変更] ボタンをクリックします。



①クリックして

②クリック

[ユーザグループの管理]画面が表示されます。



第3部

データの暗号化

4

ユーザのグループ分けと管理

左側の[ユーザグループ]リストボックスの[階層1]には「ルート」というフォルダがあります。このフォルダは削除できません。フォルダ名は変更することが可能です。

右側の[ユーザリスト]リストボックスには、ユーザ情報をインポートしたユーザが表示されています。

3. 「ルート」フォルダ上で右クリックして、[フォルダ名の変更]を選択します。

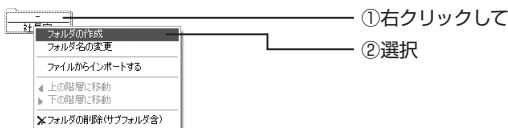


4. [フォルダ名] テキストボックスに「社長室」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。



フォルダ名が「ルート」から「社長室」に変更されます。
次に階層2以下にフォルダを作成し、ユーザグループを作成していきます。

5. 「社長室」フォルダを右クリックして、[フォルダの作成] を選択します。

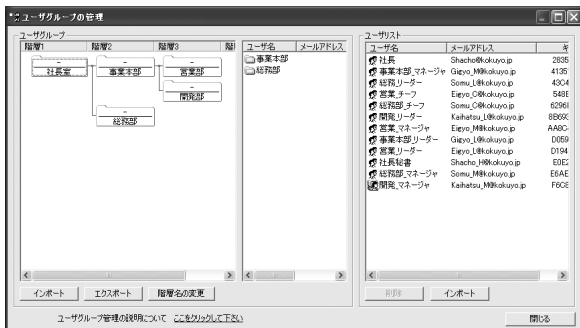


6. フォルダ名を入力するダイアログボックスが表示されます。「事業本部」と入力して、[OK] ボタンをクリックします。

階層2に「事業本部」フォルダが作成されます。

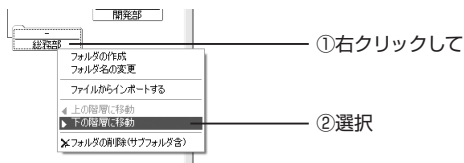


7. 同様の操作を繰り返して下位階層にフォルダを作成し、フォルダを作成していきます。

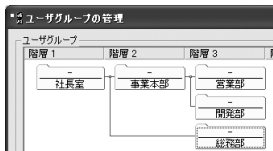


フォルダを現在の階層から別の階層へ移動させる

1. 移動させたいフォルダ上で右クリックして、移動先を選択します。



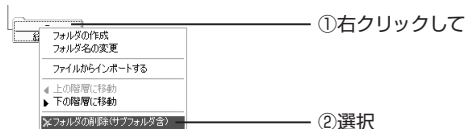
このようにして階層構造を持ったユーザーグループを作成します。





ユーザグループのフォルダを削除する

1. 削除したいフォルダ上で右クリックし、[フォルダの削除 (サブフォルダ含)] を選択します。



2. 確認のダイアログボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。

下位階層にサブフォルダがある場合は、一緒に削除されます。

⚠ 注意

階層1のフォルダ上で[フォルダの削除 (サブフォルダ含)]を選択した場合は、初期の状態に戻ります。



ユーザグループの階層名を変更する

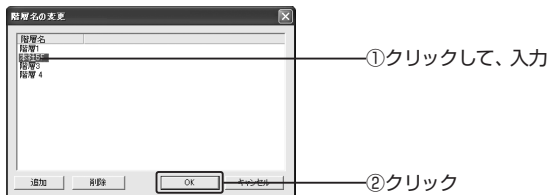
ユーザグループの階層は、階層ごとに名前を付けることができます。

1. [ユーザグループ] リストボックスの下にある [階層名の変更] ボタンをクリックします。



クリック

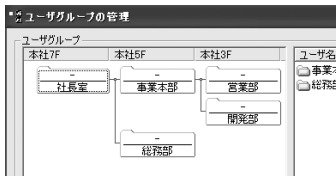
2. 名前を変更したい階層をクリックすると、画面内に入力欄が表示されます。任意の階層名を入力して [OK] ボタンをクリックしてください。



メモ

[追加] ボタンをクリックすると、階層5以降の名前を変更することができます。
[削除] ボタンをクリックすると、選択した階層名が削除されます(階層自体は削除されません)。

リストボックスの各階層の見出し部分が入力した文字列に置き換えられます。

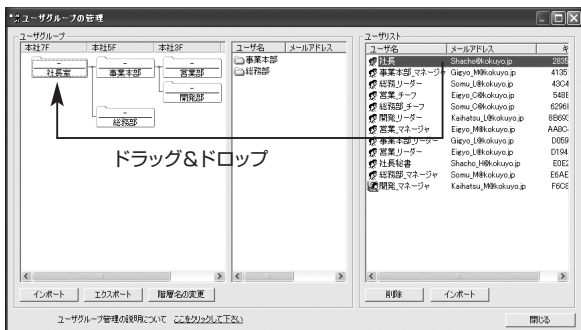


ユーザーグループのフォルダにユーザを追加する

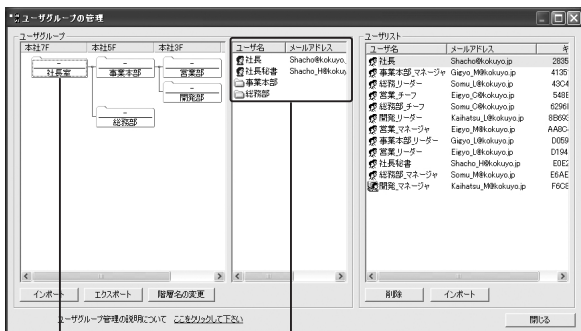


ユーザーグループのフォルダにユーザを追加します。

1. [ユーザーリスト] リストボックスから、フォルダに追加したいユーザを [ユーザーグループ] リストボックスのフォルダヘドラッグ&ドロップします。



ユーザグループのフォルダを選択すると、画面中央のリストボックスに、そのグループに所属するユーザとサブフォルダが表示されます。



① 選択すると

② クリックしたフォルダのユーザとサブフォルダが表示される

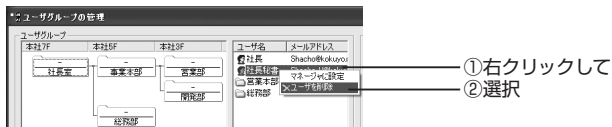
ユーザグループのフォルダからユーザを削除する

EAM-UJ600 ネットキー



ユーザグループのフォルダからユーザを削除します。

- 画面中央のリストボックスに表示されているユーザ上で右クリックして、[ユーザを削除] を選択します。



① 右クリックして
② 選択

- 確認のダイアログボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。

ユーザはフォルダから削除されます ([ユーザリスト] リストボックスからは削除されません)。



グループマネージャを設定する

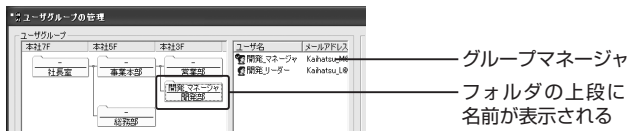
1つのフォルダに1人、グループマネージャを設定することができます。
これは部門長のような、グループの代表者を識別するための目印として利用することができます。

グループマネージャに設定されたユーザは、グループフォルダの上段に名前が表示され、そのグループの代表者であることがひと目でわかるようになります。

1. 画面中央のリストボックスに表示されているリストで、マネージャに設定したいユーザを右クリックして、[マネージャに設定]を選択します。



選択したユーザがグループマネージャとして設定されます。
グループマネージャに設定されているユーザには青いチェックマークのアイコンが付き、グループフォルダの上段に名前が表示されます。



メモ

同じフォルダ内でマネージャを変更するときは、マネージャに変更したいユーザを右クリックして、[マネージャに設定]を選択すると、マネージャが入れ替わります。



ユーザグループ情報のインポートとエクスポート

ユーザグループの情報はファイルにエクスポートしたり、ファイルからインポートしたりすることができます。これにより、組織のユーザグループを作成してエクスポートしたファイルを組織内に配布することで、組織内のメンバーが同じユーザグループ情報を利用することができます。

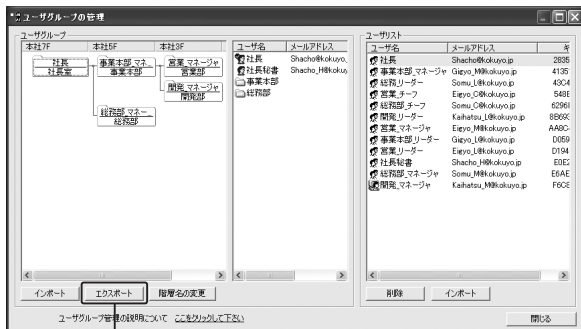
第3部

データの暗号化

4 ユーザのグループ分けと管理

●ユーザグループ情報をエクスポートする

1. [ユーザグループの管理]画面で[エクスポート]ボタンをクリックします。



クリック

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

2. 保存先のフォルダを選択し、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。



ユーザグループ情報ファイル(.egi形式)が保存されます。

● ユーザグループ情報をインポートする

1. [ユーザグループの管理]画面で[インポート]ボタンをクリックします。

[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

2. フォルダを選択し、ユーザグループ情報ファイル(.egi形式)を選択して[開く]ボタンをクリックします。



ユーザグループ情報が[ユーザグループの管理]画面に反映されます。

❗ 注意

- ユーザグループ情報のインポートを行うと、元のユーザグループに上書きされます。上書き実行後は、元のユーザグループの復元はできませんので、十分注意してください。
- ユーザグループ情報のインポートを行うと、ユーザグループに含まれるユーザリストも追加されます。

ユーザグループを使って暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する



「EAM-UK500」で暗号化したファイルに、アクセスを可能にするユーザを、ユーザグループを使って追加します。

ここでは、ユーザグループの「事業本部」と「社長室」に所属するユーザ全員を追加することを想定して説明します。

1. 「EAM-UK500」キー（オーナーキー）をパソコンに差し込んだ状態で、「EAM-UK500」で暗号化されたファイルのプロパティを表示し、[詳細] ボタンをクリックします。

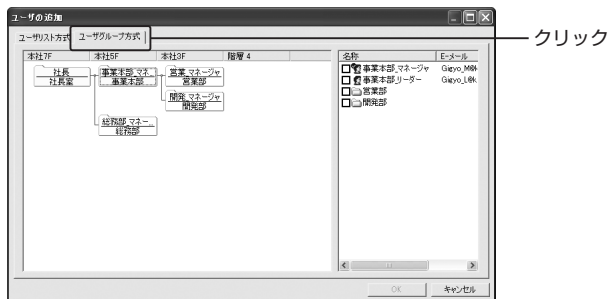
[セキュリティ] ダイアログボックスが表示されます。

2. [追加] ボタンをクリックします。



[ユーザの追加] ダイアログボックスが表示されます。

3. [ユーザグループ方式] タブをクリックすると、ユーザグループが一覧表示されます。



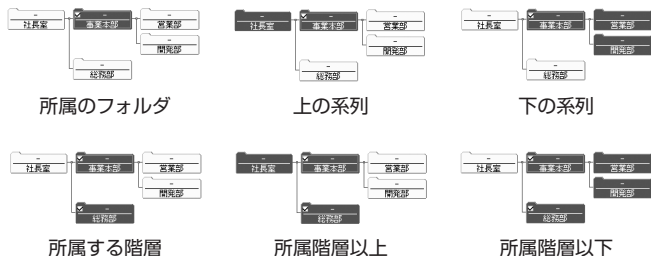
4. 「事業本部」フォルダ上で右クリックして、「上の系列」を選択します。



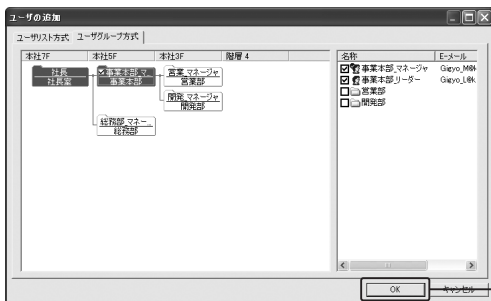
「上の系列」を選択すると、「事業本部」フォルダを含む上位系列のフォルダを選択します。したがって、この場合は「社長室」フォルダが選択されます。

メモ

その他の選択肢では、次の図のように選択されます。




5. [OK] ボタンをクリックします。



クリック

[ユーザの追加] ダイアログボックスが閉じ、ユーザグループで選択したユーザ名が追加されます。

6. 必要に応じて、追加された一般ユーザーに個別のアクセス権を設定します。

 参照 P.84 「ユーザーごとのアクセス権を設定する」

メモ

暗号化フォルダについても、同様の手順で行うことができます。

ユーザーグループを使ってネットキーでファイルを暗号書庫化する



ユーザーグループを使ってネットキーでファイルを暗号書庫化します。


注意

ファイルの暗号書庫化および暗号解除には、キー生成済みの「EAM-UK500」キーが必要です。万一、キーを紛失したり盗難にあたりたりした場合は、暗号書庫ファイルの操作が行えなくなります。

「EAM-UK500」キーの紛失には十分注意してください。

メモ

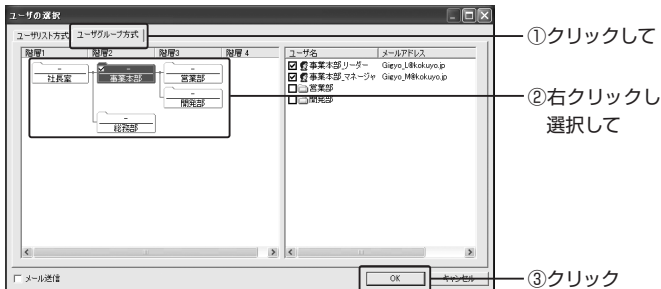
ネットキーによる暗号化について、詳しくは以下のページを参照してください。

 参照 P.85 「ネットキーによる暗号化」

1. 暗号化したいファイルを右クリックして、[ネットキーでの暗号化]を選択します。

[ユーザーの選択] ダイアログボックスが表示されます。

2. [ユーザグループ方式] タブをクリックし、フォルダを右クリックします。メニューからアクセス可能とするフォルダを選択して [OK] ボタンをクリックします。



元のファイルの保存場所と同じ場所に暗号書庫ファイル(.nkf形式)が作成されます。

メモ

[ユーザの選択] 画面左下の [メール送信] チェックボックスを選択し、[OK] ボタンをクリックすると、暗号書庫ファイル作成とともに、その暗号書庫ファイルが添付された電子メールを選択されたユーザ宛てに新規作成することができます。その際、メールの宛先には暗号書庫ファイルへのアクセスを許可されたユーザが自動的に設定されます。

メールの送信の際に、ユーザを選択し直す必要がありません。ただし、メール送信時の宛先自動設定機能が利用できるのは、メールアドレス情報がユーザの情報に含まれている場合に限りです。

注意

作成した暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加する場合は、「ユーザリスト方式」のみとなります。

参照 P.89 「暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加する」

第4部

便利な機能とキーの管理

この部では、知らないうちにパソコン内のデータをフロッピーディスクやMOなどのリムーバブルディスクにコピーされたり、勝手にCD-ROMドライブからソフトウェアをインストールされたりするのを防ぐ外部メディアのアクセス禁止機能、よく使うユーザ名とパスワードをキー内に保存できるパスワードメモリー機能、キー自体をパスワードで保護するPIN保護機能、「EAM-UK500」キーのユーザ情報のバックアップや復元方法などについて説明します。

1.外部メディアのアクセス禁止設定.....	P.112
2.よく使うパスワードの保存.....	P.115
3.キーの設定と管理.....	P.127

1.外部メディアのアクセス禁止設定

「EAM-UK500」では、お使いのパソコンのフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブ、リムーバブルディスクドライブなどの外部メディアへのアクセスを制限することができます。

この機能を利用すると、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーがパソコンのUSBポートに差し込まれていないときに、フロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブ、リムーバブルディスクドライブなどにアクセスできなくなります。

たとえば、退席中に、ハードディスクに保存されているファイルをフロッピーディスクやMO等にコピーして持ち出されたり、CD-ROMからアプリケーションをインストールされたりすることを未然に防ぐことができます。

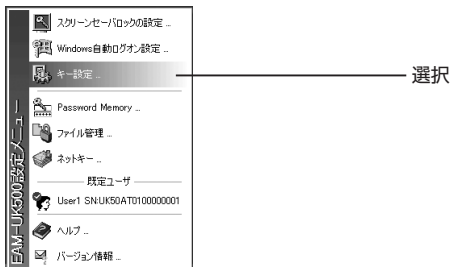
外部メディアのアクセスを禁止する

！ 注意

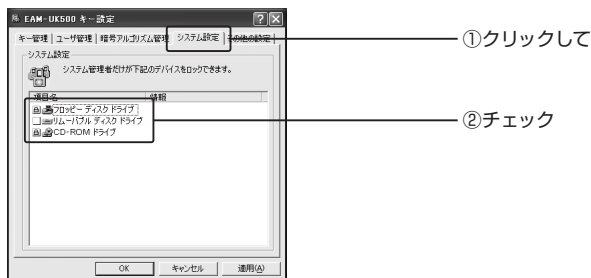
この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」



2. [システム設定]タブをクリックして、アクセスを禁止したいドライブのチェックボックスをチェックします。

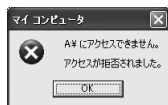


各ドライブの左側にあるチェックボックスがチェックされていると、そのドライブにアクセスすることができなくなります。ロックされるとチェックボックスに錠型のアイコンが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

操作完了後、キーを抜き取り、禁止したドライブが禁止されているかどうかを確認してください。

アクセス禁止に設定したドライブは、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーがパソコンのUSBポートに差し込まれていないと使用できません。アクセスしようとすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



❗ 注意

ダイアログボックスが表示されず、空白の画面が表示される場合がありますが、アクセスはできません。

メモ

「リムーバブルディスクドライブ」へのアクセスを禁止しておけば、パソコンにリムーバブルディスクとして認識されるすべてのメディア（たとえばUSBフラッシュメモリなど）へのアクセスも制限することができます。

外部メディアのアクセス禁止を解除する

注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから [キー設定] を選択します。

 参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. [システム設定] タブをクリックして、アクセス禁止を解除したいドライブのチェックボックスを外します。
3. [OK] ボタンをクリックします。

2.よく使うパスワードの保存

パスワードメモリー機能は、「EAM-UK500」キー内に、身の周りのユーザ名やパスワードなどの文字情報を安全に保存できる機能です。ユーザ名やパスワードを覚えたり、メモを取ったりする必要がなくなります。

「EAM-UK500」キー内には、32組のユーザ名とパスワードを保存できます。

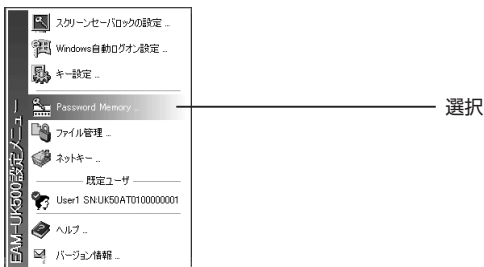
パスワードメモリーにパスワード情報を追加する

❗ 注意

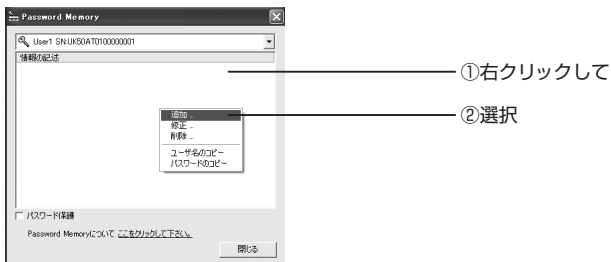
この設定の後に、キー情報バックアップファイル(.eki形式)を更新する作業を行います。作業を始める前に、保存していたリムーバブルディスクを手元に用意しておいてください。

1. 設定メニューから [Password Memory] を選択します。

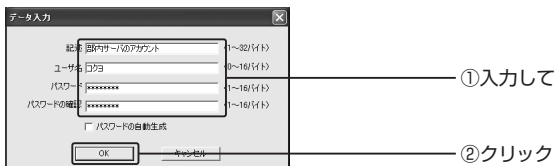
参照 P.37 「設定メニューの表示」



2. [情報の記述] リストボックス内を右クリックし、ショートカットメニューから [追加] を選択します。



3. [データ入力] ダイアログボックスが表示されます。各項目にデータを入力して [OK] ボタンをクリックします。



各項目の入力内容については、次の表を参考にしてください。

データ項目	入力内容
記述	このデータが何のデータであるかを入力します。わかりやすいタイトルを入力するといいでしょう。例：「インターネット接続アカウント」、「〇×銀行ログオン」など
ユーザ名	ユーザ名やユーザIDなどを入力します。例：「国誉太郎」、「Taro_Kokuyo」など
パスワード	パスワード、暗証番号などを入力します。入力した文字は*(アスタリスク)で表示されます。
パスワードの確認	入力ミスがないかどうかを確認するため、[パスワード]に入力したものと同一データを入力します。


それぞれの入力項目には文字数の制限があります。制限については、次の表を目安にしてください。半角文字と全角文字が混在している場合、文字数の上限は変わる場合があります。

データ項目	文字数制限
記述	半角32文字以下。全角16文字以下。1文字以上入力する必要があります。
ユーザ名	半角16文字以下。全角8文字以下。何も入力しなくてもかまいません。
パスワード	半角16文字以下。全角8文字以下。1文字以上入力する必要があります。

このダイアログボックスで入力したデータが、一組のパスワード情報として扱われます。「EAM-UK500」キー内には、パスワード情報を32組保存することができます。

メモ

[パスワードの自動生成] チェックボックスは、パスワードをランダムに生成する機能です。利用方法については、以下のページを参照してください。

 P.125 「パスワードを自動生成する」

4. パスワード情報が登録されます。手順2、3までを繰り返せば、さらにパスワードを追加することができます。ここでは [閉じる] ボタンをクリックして作業を終了します。



クリック

5. 情報を「EAM-UK500」キーに保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。よろしければ [はい] ボタンをクリックします。



クリック

① 注意

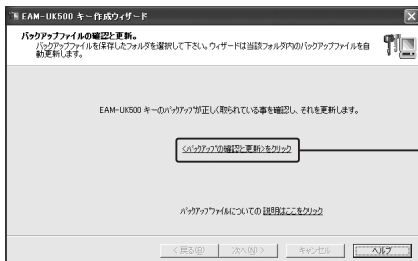
「EAM-UK500」キーに情報を保存している間は、他の操作をせず保存が終了するまでお待ちください。保存に失敗すると、パスワードメモリーが動作しない場合があります。

6. 保存したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリック

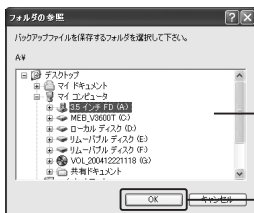
7. [バックアップの確認と更新]をクリックします。



8. キー生成時にバックアップファイルを保存したリムーバブルディスクをドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックします。



9. バックアップファイルが保存されている場所を指定し、[OK]ボタンをクリックします。



10. キー生成時に指定したパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



11. リムーバブルディスクを取り出し、[OK] ボタンをクリックします。



クリック

12. [OK] ボタンをクリックします。




クリック

[バックアップファイルの確認と更新] 画面に戻ります。

13. [次へ] ボタンをクリックします。

14. [完了] ボタンをクリックします。

これで、パスワード情報が「EAM-UK500」キーに保存されました。
なお、保存したパスワードを参照する方法は、以下のページを参照してください。

 P.125 「パスワードメモリーを利用する」

メモ

パスワードメモリー機能を使って「EAM-UK500」キーに保存したユーザ名やパスワードは、キー内部に保存されるため、「EAM-UK500」がインストールされた他のパソコンにキーを差し込んでも参照できます。

パスワードメモリーをパスワードで保護する

パスワードメモリーの情報は、そのままだと「EAM-UK500」キーがパソコンのUSBポートに差し込まれてさえいれば、誰にでも読み出せてしまいます。これを防ぐために、パスワードメモリーの情報全体にパスワード保護を設定することができます。

❗ 注意

この設定の後に、キー情報バックアップファイル(.eki形式)を更新する作業を行います。作業を始める前に、保存していたリムーバブルディスクを手元に用意しておいてください。

1. 設定メニューから [Password Memory] を選択します。

 P.37 「設定メニューの表示」

2. [パスワード保護] チェックボックスをチェックします。



チェック

3. パスワードメモリーの情報全体を保護するためのパスワードを登録します。 [パスワード] にパスワードを、[パスワードの確認] に同じパスワードをそれぞれ入力し、[確定] ボタンをクリックします。



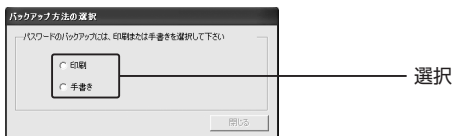
①入力して

②クリック

メモ

パスワード保護のパスワードは、パスワードメモリー専用ですので、キー生成時に入力したパスワードなどと同じにする必要はありません。

4. [Password Memory] ダイアログボックスに戻ります。[閉じる] ボタンをクリックします。
5. 情報を「EAM-UK500」キーに保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。
6. 保存したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。
7. パスワード保護のためのパスワードをバックアップする方法を指定します。



[印刷] を選択すると、[印刷] ダイアログボックスが表示されます。プリンタを選択して印刷してください。[手書き] を選択すると、パスワードを表示するダイアログボックスが表示されます。内容を控えたら [OK] ボタンをクリックします。[印刷] ダイアログ、あるいはパスワードを確認するダイアログボックスを閉じると、[バックアップ方法の選択] ダイアログボックスに戻るので [閉じる] ボタンをクリックします。

8. キーのバックアップを開始します。[<バックアップの確認と更新>をクリック] をクリックします。
9. キー生成時にバックアップファイルを保存したリムーバブルディスクをドライブにセットし、[OK] ボタンをクリックします。
10. バックアップファイルが保存されている場所を指定し、[OK] ボタンをクリックします。
11. キー生成時に指定したパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。
12. リムーバブルディスクを取り出し、[OK] ボタンをクリックします。

13. [OK] ボタンをクリックします。

[バックアップファイルの確認と更新] 画面に戻ります。

14. [次へ] ボタンをクリックします。

15. [完了] ボタンをクリックします。

これで、パスワードメモリー全体がパスワードで保護されました。以降は、設定メニューから [Password Memory] ダイアログボックスを表示しようとする、次のようなダイアログボックスが表示されます。



正しいパスワードが入力されなければ、[Password Memory] ダイアログボックスが表示されなくなります。

メモ

パスワードメモリーのパスワード保護を解除するには、正しいパスワードを入力して [Password Memory] ダイアログボックスが表示されたあと、[パスワード保護] チェックボックスを外します。

パスワードメモリーのパスワード情報を修正する

保存されたパスワードメモリー情報を修正します。

1. [Password Memory] ダイアログボックスの [情報の記述] リストボックスで、修正したいデータを選択し、リストボックス内で右クリックしてショートカットメニューから [修正] を選択します。



①右クリックして

②選択

[修正]を選択すると、[データ入力]ダイアログボックスが表示され、データを修正することができます。

メモ

以降の操作では、「パスワードメモリーにパスワードを追加する」の手順3以降を参照してください。

参照 P.115 「パスワードメモリーにパスワード情報を追加する」

パスワードメモリーのパスワード情報を削除する

保存されたパスワードメモリー情報を削除します。

1. [Password Memory] ダイアログボックスの[情報の記述]リストボックスで、削除したいデータを選択し、リストボックス内で右クリックしてショートカットメニューから[削除]を選択します。



①右クリックして

②選択

[削除]を選択すると選択したデータが削除されます。

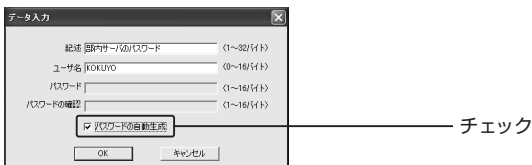
メモ

以降の操作では、「パスワードメモリーにパスワードを追加する」の手順4以降を参照してください。

参照 P.115 「パスワードメモリーにパスワード情報を追加する」

パスワードを自動生成する

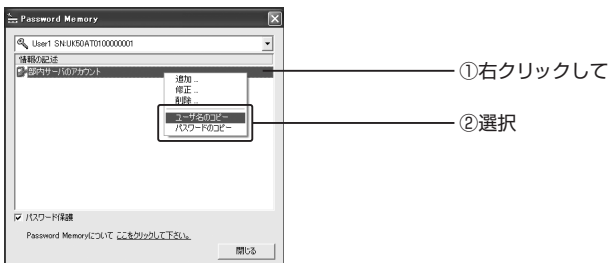
[データ入力]ダイアログボックスで、[パスワードの自動生成]チェックボックスをチェックすると、ランダムな16バイトのパスワードを自動生成します。パスワードは無作為に生成されているため比較的安全です。これからパスワードを決めるときに便利です。



パスワードメモリーを利用する

パスワードメモリーに保存したデータを利用するには、コピー&貼り付けを利用します。

[Password Memory]ダイアログボックスのリストボックスから、ユーザ名、またはパスワードを参照したいデータを選択し、右クリックします。ショートカットメニューから[ユーザ名のコピー]または[パスワードのコピー]を選択します。



これにより、選択したデータがクリップボードという場所に一時的にコピーされました。データを貼り付けたい場所で「貼り付け」を実行すれば、クリップボードにコピーされている内容が貼り付けられます。

たとえば、Webサイトのユーザ認証で、パスワード入力用のテキストボックスにパスワードを入力したい場合には、[パスワードのコピー]を選択しておいて、パスワードを入力するテキストボックスを選択してから、[Ctrl]+[V]キーを押します。多くの場合、パスワード入力欄は「* (アスタリスク)」が表示されるので、パスワードを文字で確認できないようになっています。もしパスワードの文字列を確認したい場合は、メモ帳などのアプリケーションを使って、メニューの[編集]-[貼り付け]コマンドで文書に貼り付けると確認することができます。

次の画面は、パスワードの自動生成機能で生成されたパスワードを、Windowsのメモ帳に貼り付けたところです。



❗ 注意

貼り付けたパスワードは、他人に見られないよう注意してください。






3.キーの設定と管理

「EAM-UK500」キー内に保存されているキー情報は大切なデータです。ファイルにバックアップをとって安全な場所に保管しておく必要があります。何らかの理由で、キー内部の情報が破損したり、書き換えられたりしてしまうと、それ以前に暗号化したファイルの暗号解除やその他の設定が行えなくなってしまいます。万一そのような事態になった場合、バックアップファイルから、キー情報を復元しなければなりません。

この章では、キー情報に関連した内容について説明します。また、キー情報の変更を未然に防ぐPIN保護機能についても説明します。

メモ

「EAM-UK500キー設定」画面の「キー管理」タブで表示されるアイコンなどの意味は以下の通りです。


 (黄色のキー)	生成されたキー
 (白色のキー)	まだ生成されていないキー
 (黄色のキーと錠前)	PIN保護機能が有効になっているキー
 (パソコンと人物)	管理者キーであることを表す
 (人物のみ)	ユーザキーであることを表す
User1 (太文字)	オーナーキーであることを表す
User2 (通常文字)	オーナー以外のキーであることを表す

「EAM-UK500」キーの生成／再生成

新たにキーを生成したり、生成済みのキーを生成し直したりすることができます。

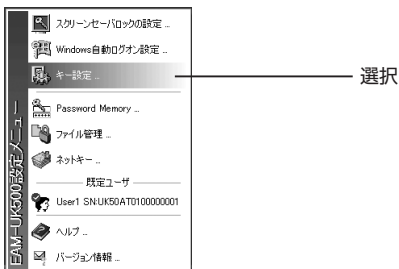
注意

管理者キーを別の情報で再生成すると、管理者キーの権限を失いますので絶対に行わないでください。万一、別の情報で再生成してしまった場合は、管理者キーのバックアップファイルからキーの復元を行ってください。

 参照 P.131 「キー情報を復元する」

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」



2. [EAM-UK500キーの設定] ダイアログボックスの[キーの作成]エリアにある[作成]ボタンをクリックします。



3. キー生成ウィザードが表示されます。

メモ

- 以降の操作では、以下のページを参照してください。

参照 P.29 「[EAM-UK500]キーの生成」

- 作成済みのキーにキー情報を再生成する場合は、一度元のキー情報を消去してから生成してください。

参照 P.133 「キー情報を消去する」

キー情報をバックアップする

キー情報バックアップファイル(.eki形式)とは、「EAM-UK500」キーの中に保存されているユーザ名やパスワードなどを管理しているファイルです。

❗ 注意

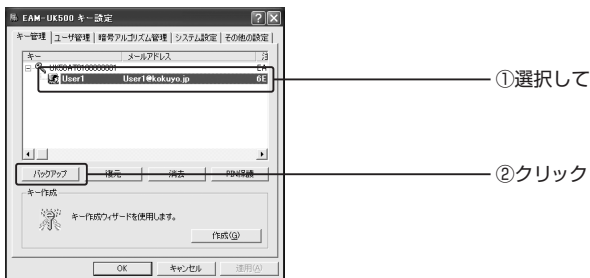
キー情報バックアップファイル(.eki形式)はユーザ情報ファイル(.epk形式)とは異なり、絶対に他のユーザに渡してはいけません。リムーバブルディスクに保存し、ディスクは厳重に管理・保管してください。

「EAM-UK500」キーのキー情報バックアップファイルは下記の手順で保存することができます。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

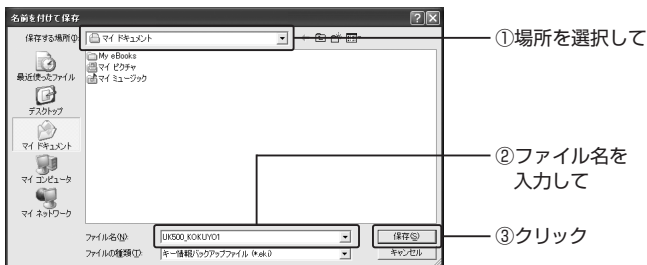
参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. リストボックスからバックアップをとりたいユーザ名を選択し、[バックアップ]ボタンをクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

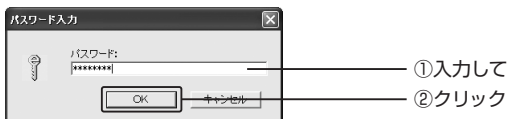
3. [保存する場所] を選択し、[ファイル名] を入力して [保存] ボタンをクリックします。



メモ

ファイル名の入力欄にはあらかじめ「UK500_」と表示されています。この後ろに続けてファイル名を入力すると、後から「EAM-UK500」のバックアップファイルだということがわかりやすくなります。

4. キー生成時に入力したパスワードを入力し [OK] ボタンをクリックします。



5. [OK] ボタンをクリックします。



❗ 注意

- バックアップファイルをパソコンのハードディスク内に保存することは、セキュリティ上、おすすめできません。フロッピーディスクなど外部メディアに保存し、厳重に保管することをおすすめします。
- この手順を何回も行うと、キー情報バックアップファイル(.eki形式)をいくつも作成することができます。キー情報バックアップファイルは厳重に保管してください。また、ユーザ情報ファイル(.epk形式)と混同しないように、ファイル名は異なる名前管理されることをおすすめします。

キー情報を復元する

キー情報バックアップファイルから、別の「EAM-UK500」キーにキー情報を書き込めば、スペアキーを作ることができます。また、万一「EAM-UK500」キーを紛失した場合、別のキーにキー情報を復元すれば、元のキーとして使うことができます。

キー情報バックアップファイルから「EAM-UK500」キーにキー情報を復元します。

❗ 注意

キー情報の復元には、キー情報バックアップファイル(.eki形式)が必要となります。作業を始める前に、保存していたリムーバブルディスクを手元に用意しておいてください。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

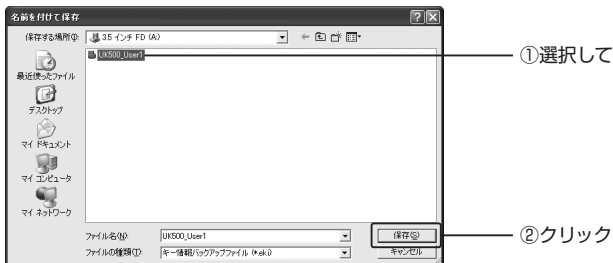
 P.37 「設定メニューの表示」

2. リストボックスから復元したいキーを選択し、[復元]ボタンをクリックします。



[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

3. 復元したいキー情報バックアップファイル(.eki形式)を選択し、[開く]ボタンをクリックします。



すでに、キー情報が登録されているキーに復元しようとした場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。よろしければ[はい]ボタンをクリックします。



❗ 注意

管理者キーが存在しない状態で、キー情報の復元を行った場合、そのキーはまだ管理者キーにはなっていません。

キー情報を復元後、[EAM-UK500キー設定] ダイアログボックスの[キーの作成]エリアにある[作成]ボタンをクリックし、キーの生成ウィザードにより設定を行ってください。

途中で「既にキー情報が存在します。キー情報を新しく生成しますか?」という画面が表示されたら[いいえ]ボタンをクリックし、その後「現在のキーを管理者キーとして設定します。よろしいですか?」という画面が表示されたら[はい]ボタンをクリックしてください。以降は、ウィザード画面の指示に従ってください。

[完了]ボタンをクリックすると、そのキーが管理者キーとなります。

参照 P.127 「[EAM-UK500] キーの生成/再生成」

キー情報を消去する

キーの情報を消去し、キーを初期化することができます。

❗ 注意

管理者キーのキー情報は消去しないでください。どうしても管理者キーのキー情報を消去する場合は、「EAM-UK500」の以下の設定をすべてOFFにしてください。

参照 P.43 「スクリーンセーバロックをOFFにする」

参照 P.53 「自動ログオン設定をOFFにする」

この操作を行わないと、キー情報を消去した後、上記機能を解除することができなくなりパソコンが使用できなくなります。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. リストボックスからキー情報を消去したいユーザ名を選択し、[消去] ボタンをクリックします。しばらく待つと情報が消去されます。



3. [OK] ボタンをクリックします。



❗ 注意

管理者キーのキー情報を消した場合は、そのパソコンを管理するキーが存在しない状態になるため、セキュリティ上大変危険です。すぐに「EAM-UK500」キーを用意して管理者キーを作成してください。

参照 P.29 「EAM-UK500」キーの生成

参照 P.131 「キー情報を復元する」

PIN保護を有効にする

「EAM-UK500」には、万一のときに備えて、PIN保護機能が用意されています。PIN保護を有効にしておくと、「EAM-UK500」キーをパソコンに差し込むたびに、PIN認証が必要となるため、セキュリティを向上させることができます。

メモ

- 「EAM-UK500」キーを安全にお使いいただくためにも、PIN保護を有効にしておくことをおすすめします。
- 「PIN(=Personal Identification Number)」とは、利用者しか知らない番号(=暗証番号)のことです。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

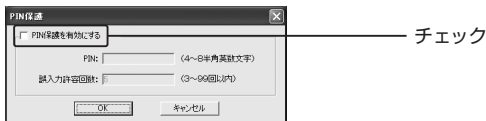
参照 P.37 「設定メニューの表示」

2. リストボックスからPIN保護を有効にしたいユーザを選択して、[PIN保護] ボタンをクリックします。

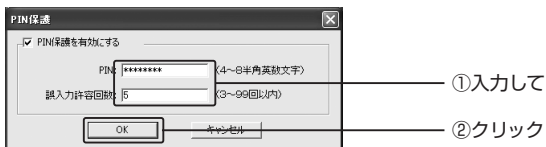


[PIN保護] ダイアログボックスが表示されます。

3. [PIN保護を有効にする] チェックボックスをチェックします。



4. [PIN] および [誤入力許容回数] テキストボックスにそれぞれ入力し、[OK] ボタンをクリックします。



それぞれの項目の入力内容については、次の表を参考にしてください。

データ項目	入力内容
PIN	PINコード番号を入力します。4文字以上8文字以下の半角英数字を入力してください。
誤入力許容回数	PINコード入力を求められたときに、何回まで誤入力を認めるかを3~99回の範囲で指定します。

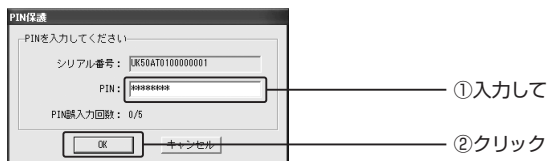
① 注意

[PIN] テキストボックスへのパスワード入力は1回のみです。再確認は行われませんので注意してください。

[EAM-UK500キー設定] ダイアログボックス画面に戻ります。PIN保護を有効にしたユーザのキーアイコンの左下に錠前のアイコンが追加されます。




PIN保護を有効にしておく、「EAM-UK500」キーをパソコンに差し込むたびに、以下のダイアログボックスが表示されます。



！ 注意

正しいPINコードを誤入力許容回数以内に入力できないと、「EAM-UK500」キーが強制的に初期化されて使用できなくなります。そのような場合は、キーを再作成するか、キー情報バックアップファイルから、キーのキー情報を復元してください。

 参照 P.29 「EAM-UK500」キーの生成

 参照 P.131 「キー情報を復元する」

メモ

PIN保護を無効にする場合は、[PIN保護] ダイアログボックスの、[PIN保護を有効にする] チェックボックスを外してください。

■ PIN保護について

「EAM-UK500」には、PIN保護の仕様が異なるTypeAとTypeBの二種類のプログラムが存在しています。

TypeAでは、PIN保護機能を管理者キーまたはユーザキーの区別なく利用できますが、TypeBではユーザキーの機能に制限があります。

● TypeA (通常のプログラムはこちらになります)

「EAM-UK500」TypeAでのPIN保護機能は、管理者キーとユーザキーで共通となります。

- キー生成時にPIN保護の有効／無効を選択することができます。
- PINコードの変更が可能です。
- PINコードの誤入力許容回数を変更できます。

● TypeB (CD-ROM内のTypeBフォルダに収録しています)

「EAM-UK500」TypeBでのPIN保護機能は、管理者キーとユーザキーとで異なります。

管理者キー

- キー生成時にPIN保護の有効／無効を選択することができます。
- PINコードの変更が可能です。
- PINコードの誤入力許容回数を変更できます。

ユーザキー

- キー生成時のみPIN保護の有効／無効を選択することができます。
- PINコードの変更が可能です。
- PINコードの誤入力許容回数を変更できます。
- PIN保護機能が有効なユーザキーを無効化するためには、管理者キーが必要です。その場合、管理者キーとユーザキーの2本を、共にPCのUSBポートに接続した状態で操作する必要があります。

暗号アルゴリズムを設定する

「EAM-UK500」では、暗号化の際に使用する暗号アルゴリズムを、複数の中から選択することができます。これにより、暗号化にかかる速度や、暗号の強度を変更することができます。

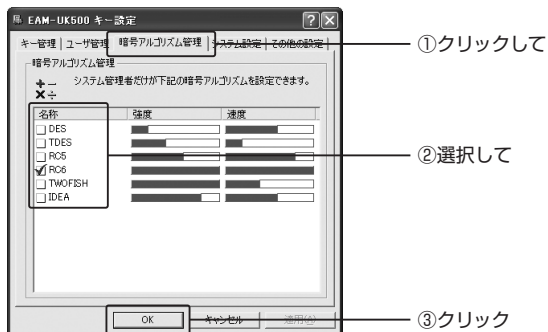
⚠ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

 P.37 「設定メニューの表示」

2. [暗号アルゴリズム管理] タブをクリックし、設定したい暗号アルゴリズムをチェックして [OK] ボタンをクリックします。



選択可能な暗号化アルゴリズムの特徴は以下の通りです。

アルゴリズム	特徴
DES	アメリカが取り決めた国家暗号化標準アルゴリズム。暗号化スピードは比較的速いが暗号化強度は低く、解析されやすい。近い将来には淘汰される。
TDES	比較的高い暗号化強度を持つが、三重暗号化/暗号解除操作をするためにスピードは比較的遅い。
RC5	比較的スピードは速い。強度は中程度。
RC6	アメリカが新しく取り決めようとしている国家暗号化標準アルゴリズム候補の一つ。理論的に非常に高い強度を持ち、暗号化スピードも速い。インストール直後は、これが選択されている。
TWOFISH	アメリカが新しく取り決めようとしている国家暗号化標準アルゴリズム候補の一つ。理論的に非常に高い強度を持つが、暗号化スピードの点で劣る。
IDEA	ヨーロッパでは暗号化標準アルゴリズムとされている。DES と比べ、暗号化スピード・暗号化強度共に一段上。

自動ログオフ設定をONにする

「EAM-UK500」キーをパソコンのUSBポートから抜き取るだけで、Windowsからログオフできるように設定します。

❗ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから [キー設定] を選択します。

参照 P.37 「設定メニューの表示」

[EAM-UK500キー設定] ダイアログボックスが表示されます。

2. [その他の設定] タブをクリックして、[強制的にログオフする] オプションボタンをクリックして、[OK] ボタンをクリックします。



❗ 注意

自動ログオフ設定をONにすると、「EAM-UK500」キーを抜き取ることで自動ログオフが実行されます。例えば、「EAM-UK500」キーを差し込まないでログオンしている状態では実行されません。この場合は一度キーを差し込み、キーを抜き取ることで実行されます。

自動ログオフ設定をOFFにする

「EAM-UK500」キーを抜き取るだけで、Windowsからログオフできる設定を解除します。

❗ 注意

この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。

1. 設定メニューから[キー設定]を選択します。

 P.37 「設定メニューの表示」

[EAM-UK500キー設定] ダイアログボックスが表示されます。

2. [その他の設定] タブをクリックして、[何もしない] オプションボタンをクリックして、[OK] ボタンをクリックします。

コンピュータをロックする

「EAM-UK500」キーを抜き取ったときに、パソコンをロックすることができます。スクリーンセーバロックと同様、一時的に席を外するときなどに便利です。

❗ 注意

- この設定を行うには、お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。
- Windows98SE/Meには、この設定はありません。

第4部

便利な機能とキーの管理

3 キーの設定と管理

1. 設定メニューから [キー設定] を選択します。

 P.37 「設定メニューの表示」

[EAM-UK500キー設定] ダイアログボックスが表示されます。


2. [その他の設定] タブをクリックし、[コンピュータをロックする] オプションボタンをクリックして [OK] ボタンをクリックします。

❗ 注意

コンピュータのロックを設定後、「EAM-UK500」キーを抜き取るとパソコンがロックされ、Windowsのコンピュータのロック画面が表示されます。解除する場合は、Windowsのログオンパスワードを入力してログオンしてください(キーを差し込んでも自動的に解除はしません)。



メモ





「EAM-UK500」キーの抜き差しでパソコンを一時的にロックしたい場合は、スクリーンセーバロックの設定をおすすめします。



 P.40 「スクリーンセーバロックの設定」





付録






こんなときには

状 況	対 応
「EAM-UK500」が正しくインストールできない。	「EAM-UK500」の対象OSはWindows98 SE/Me/2000/XPです。お使いのOSはこれらに含まれていますでしょうか。 また、アンチウイルスソフトに代表されるソフトウェアが常駐している場合、正しくインストールできないことがあります。常駐を解除してからインストールしてください。
「EAM-UK500」キーを差し込んでもキーのLEDが点灯しない。	「EAM-UK500」のインストールが正しく完了していないと、キーを差し込んでも正しく認識しないためLEDは点灯しません。または、キーの認識が無効になっている可能性があります。[スタート]メニューから[コントロールパネル]-[システム]を選択し、デバイスマネージャを表示します。デバイスマネージャから「！」や「×」、「不明なデバイス」を削除し、キーを抜き差ししてください。  参照 P.29 「EAM-UK500」キーの生成
Windows自動ログオン設定を有効にしたのに、キーを差し込んでパソコンを起動しても自動ログオンしない。	Windows自動ログオン設定を有効にただけでは、キーを差し込んでも自動ログオンしません。[Esc]キーを押して、Windowsログオン画面を表示し、Windowsに設定されているユーザ名とパスワードを入力してログオンし、自動ログオン設定をONにしてください。  参照 P.46 「自動ログオン設定をONにする」

状 況	対 応
<p>スクリーンセーバロックを設定しているのに、ログオフ画面になってしまふ。</p>	<p>スクリーンセーバロック設定と自動ログオフ設定を同時に設定すると、自動ログオフ設定が優先されまふ。自動ログオフを解除してください。</p> <p> P.141 「自動ログオフ設定をOFFにする」</p>
<p>パソコンの電源を入れるとスクリーンセーバになってしまふ。</p>	<p>スクリーンセーバロック設定をONにしている場合、キーを挿入しないとスクリーンセーバに切り替わります。キーを挿入しスクリーンセーバロックを解除してください。</p> <p> P.43 「スクリーンセーバロックをOFFにする」</p>
<p>Windows自動ログオン機能をONにしている状態で、「EAM-UK500」キーを差し込んでも自動ログオンができなくなりました。</p>	<p>使用したことのないポートにキーを差し込むと反応しません。必ず、使用したことのあるポートにキーを差し込んでください。ログオン後、使用したことのないポートにキーを差し込むと、インストール画面が始まります。指示に従ってインストールを完了すると、そのポートでも使用することができます。これは、Windowsの仕様であり、キーの不具合ではございません。</p>
<p>「EAM-UK500」キーを紛失してしまい、暗号化ファイルにアクセスできなくなった。</p>	<p>新規に「EAM-UK500」をご用意いただき、紛失したキー情報バックアップファイル(.eki形式)から復元するか、紛失したキーと全く同一の情報を入力してキーを生成してください。</p> <p> P.131 「キー情報を復元する」</p> <p> P.127 「EAM-UK500」キーの生成／再生成」</p>


状 況	対 応
セーフモードでアンインストールできない。	セーフモードでは、「EAM-UK500」のドライバが認識されないため、アンインストールできません。アンインストールは通常モードで行ってください。
暗号化できないファイルやフォルダがある。	<p>次の理由が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当該ファイルやフォルダが開かれた状態になっている。 • 当該ファイルやフォルダがすでに暗号化されている。 • 当該ファイルやフォルダが破壊されている。 • USBポートに「EAM-UK500」キーが差し込まれていない、または、接触不良。 • ディスク容量が足りない。 • 「読み取り専用」になっている。
暗号化したはずのファイルがいつの間にか暗号解除されている。	Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint、Accessなど) のファイルを「上書き保存」すると、OSによって自動的に暗号解除されることがあります。これは、上書きの際、元のファイルを削除し新しいファイルに書き換えるように設計されているためです。解決策としては、暗号化フォルダの中にファイルを保存しておけば常に暗号化状態に保つことができます。
暗号化ファイルや暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加できない。	<p>暗号化ファイルや暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加できるのは、そのファイルを暗号化した「オーナー」だけです。オーナー以外のユーザは、ファイルにユーザを追加することはできません。または、暗号化ファイルにアクセス可能なユーザが15ユーザ追加されている場合は、それ以上追加できません。</p> <p> P.79「暗号化ファイルにアクセス可能なユーザを追加する」</p> <p> P.89「暗号書庫ファイルにアクセス可能なユーザを追加する」</p>


状 況	対 応
自動ログオフ機能が設定できない。	<p>お使いのパソコンのUSBポートに、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。</p> <p> P.140 「自動ログオフ設定をONにする」</p>
WindowsXPのユーザ簡易切替ができなくなった。	<p>Windows自動ログオン設定をONにしていると、ユーザ簡易切替は使用できません。ユーザ簡易切替を使う場合は、Windows自動ログオン設定をOFFにしてください。</p> <p> P.53 「自動ログオン設定をOFFにする」</p>
「EAM-UK500」キーが破壊され、暗号化／暗号解除などの操作ができなくなった。	<p>一般的には、破壊されたキーのキー情報バックアップファイル(.eki形式)などから再生成すれば、引き続き使うことができますが、再生成しても使用できない場合は、キー内部が故障している可能性が大きいので、新規にキーを用意していただき、再生成してください。</p> <p> P.131 「キー情報を復元する」</p> <p> P.127 「「EAM-UK500」キーの生成／再生成」</p>
セーフモードやDOSモードで起動した場合、Windows自動ログオン機能やスクリーンセーバ機能が無効となり、暗号化していないファイルやフォルダが自由に操作できてしまう。	<p>セーフモードやDOSモードでは、スクリーンセーバロック機能やWindows自動ログオン機能は無効となりますので、重要なファイルやフォルダは暗号化しておくことをおすすめします。暗号化しておくことにより、セーフモードやDOSモードでも操作することはできなくなります。</p>

状 況	対 応
<p>スクリーンセーバロックの設定をONにしたパソコンの「EAM-UK500」キーを忘れてきてしまったため、解除することができない。</p>	<p>新しいキー、または他のユーザのキーを使って、キー情報バックアップファイル(.eki形式)から「EAM-UK500」キーを復元します。復元には、「EAM-UK500」がインストールされたパソコンを使用します。復元したキーでスクリーンセーバロックを解除したら、設定をOFFにしてください。その後は、新しいキーはキー情報を削除して、他のユーザのキーはユーザのキー情報バックアップファイルから復元して、元に戻してください。</p> <p> P.131 「キー情報を復元する」</p> <p> P.133 「キー情報を消去する」</p>
<p>Windows自動ログオン設定をONにしたパソコンの「EAM-UK500」キーを忘れてきてしまったため、ログオンすることができない。</p>	<p>「キーのみログオン設定をON」にしている場合は、キーがないとログオンできません。新しいキー、または他のユーザのキーを使って、キー情報バックアップファイル(.eki形式)からキーを復元します。復元には、「EAM-UK500」がインストールされたパソコンを使用します。復元したキーでログオンしたら、Windows自動ログオン設定をOFFにしてください。その後は、新しいキーはキー情報を削除して、他のユーザのキーはユーザのキー情報バックアップファイルから復元して、元に戻してください。</p> <p>上記以外のWindows自動ログオン設定の場合は、[Esc] キーを押せば、Windowsのユーザ名とパスワードを入力してログオンすることができます。</p> <p> P.131 「キー情報を復元する」</p> <p> P.133 「キー情報を消去する」</p> <p> P.44 「Windows自動ログオンの設定」</p>



状 況	対 応
<p>画像ファイルを暗号化したのに、縮小表示にすると表示されてしまう (Windows 2000/XP)。</p>	<p>Windows2000/XPをお使いの場合、画像ファイルは、暗号化されていてもWindowsに組み込まれたビューア機能によって縮小表示が可能となりますが、画像ファイルを暗号化したフォルダに保管すれば、縮小表示を見られる心配はなくなります。したがって、暗号化したい画像は暗号化フォルダに保管することをおすすめします。</p>

よくある質問

質問	回答
<p>自分のキーを使って、他のユーザが作成した暗号化ファイルを開きたいのですが、どうすればよいのでしょうか？</p>	<p>まず、自分のユーザ情報を他のユーザにインポートしてもらう必要があります。そして、ファイルを暗号化する際に、自分もファイルを開けるようにアクセス権を設定してもらう必要があります。</p> <p> P.68 「暗号化ファイルやフォルダを共有するには？」</p>
<p>大量のファイルやフォルダを暗号化しても問題はないですか？</p>	<p>理論上ではファイルやフォルダの暗号化、暗号解除に対して制限はありませんが、OSの種類、他のアプリケーションの実行といった要因によるメモリリソースの消費状況など、ユーザの動作環境によっては、処理中にパソコンがフリーズするといった現象が発生する可能性があります。これは本システムに限らず、他のアプリケーション操作時にも発生する可能性がある、WindowsOS上で動作するシステムの一般的な問題です。</p> <p>安全に処理を行える範囲を特定することは困難ですが、OSへの負荷を軽くし、こうした問題を回避するために、処理ファイル数を1000個程度、ファイル容量を100Mbyte程度に限定して操作されることを推奨します。</p> <p>ただし、この推奨値は一般的な環境で操作していることを想定し、処理が安全に行われることを前提にした数値ですので、あらかじめご了承ください。</p>

質問	回答
<p>暗号化してはいけないファイルやフォルダなどがありますか？</p>	<p>下記のファイルやフォルダの暗号化を行うと障害を起こす可能性があるため、暗号化しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 隠しファイル • Windowsシステムフォルダおよびその中のシステムファイル • Microsoft Outlook/OutlookExpressのアドレス帳、カレンダー、電子メールのファイル <p>上記以外のファイルやフォルダを暗号化する場合でも、事前にファイルやフォルダをコピーして、暗号化や暗号解除の検証を行った上でご使用ください。</p>
<p>「EAM-UK500」キーを盗まれた場合、キー内部の情報が知られてしまう危険性がありますか？</p>	<p>キー生成時のパスワードを知らなければ、キー内部の情報が知られてしまうことはありません。ただし、内部のキー情報を書き換えることはできません。キー情報の書き換えを防ぐためにも、PIN保護の設定をおすすめします。</p> <p> P.134 「PIN保護を有効にする」</p>
<p>会社で「EAM-UK500」を使用しているキーを、自宅のパソコンにも使用することはできますか？</p>	<p>自分が管理するPCであれば、2台以上のPCにインストールすることは可能です。ただし、それぞれのパソコンに「EAM-UK500」をインストールする必要があります。</p>
<p>スクリーンセーバロックを実行しておけば、長時間退席しても大丈夫ですか？</p>	<p>スクリーンセーバロックを長時間実行される場合は、パソコンのスタンバイモード、サスペンドモード、モニタ電源OFF、ハードディスク電源OFFの設定を長めにするか、「しない」にすることをおすすめします。これらの設定は、コントロールパネル内の「電源オプション」または「電源の管理」から設定することができます。</p>

質 問	回 答
<p>スクリーンセーバロック中にサスペンドモードに入った場合の対処方法を教えてください。</p>	<p>スクリーンセーバロック中にサスペンドモードに入った場合、キーを差し込んでもすぐにスクリーンセーバロックが解除されないことがあります。キーを差し込んだままシステムが回復するまでお待ちください。</p>
<p>1台のパソコンで、Windows自動ログオンの機能を複数のユーザが利用することはできますか？</p>	<p>できます。自動ログオンしたい「EAM-UK500」キーをパソコンのUSBポートに差し込んだ状態で自動ログオン設定を行います。ただし、キーのみログオン設定をONにする場合は、管理者キーとして登録されている「EAM-UK500」キーを差し込んでおく必要があります。</p>
<p>「EAM-UK500」を利用しているパソコンのOSをWindows98SE/MeからWindows2000/XPへアップグレードする際に何か注意することはありますか？</p>	<p>「EAM-UK500」は、Windows98SE/MeとWindows2000/XPでインストールされるプログラムが異なるため、OSをアップグレードする場合は、必ず暗号化したファイルやフォルダをすべて解除して「EAM-UK500」をアンインストールしてから、アップグレードを行ってください。</p>
<p>「EAM-UK500」キーをパソコンに接続する際、USBハブやUSB延長ケーブルを経由してもかまいませんか？</p>	<p>市販のUSBハブやUSB延長ケーブルをお使いいただくことはできますが、Windowsでの動作が確認されているものをご利用ください。また、USBハブを経由した動作は保証しかねます。</p>

質問	回答
<p>Windowsをセーフモードで起動すると、Windows自動ログオンやスクリーンセーバロックの機能が無効になりますが、何かセキュリティ上の対策はありますか？</p>	<p>セーフモードの起動そのものを回避する手段はありませんが、ファイルやフォルダを暗号化しておけば、セーフモードで起動しても開く、コピー、移動、削除の操作を行うことはできません（Windows98SE/Meではファイル内容を解読できませんが、開く、コピー、移動、削除の操作は可能となります）。また、あらかじめWindowsのパスワードを設定しておくことより安全です。</p>
<p>スペアキーを用意したいのですが？</p>	<p>新規に「EAM-UK500」キーをご用意いただき、キー情報バックアップファイル(.eki形式)から復元するか、マスターキーと全く同一の情報を入力してキーを生成してください。</p> <p> P.131 「キー情報を復元する」</p> <p> P.127 「EAM-UK500」キーの生成/再生成」</p>
<p>「EAM-UK500」キーを抜き差しする際のタイミングに関して何か注意すべきことはありますか？</p>	<p>Windows98SE/Meの場合、必ずポインターの砂時計が終了して普通のポインターに戻ってから次の操作に進んでください。操作スピードが速すぎると、プログラムが反応しなくなる恐れがあります。「EAM-UK500」キーの抜き差しには、パソコン動作安定時間として約20秒以上の間隔を空けることをおすすめします。</p>
<p>製品のシリアルナンバーが分かりません。</p>	<p>「EAM-UK500」キー本体裏側のラベルに記載されています。</p> <p>または、キーを差し込んだ状態でタスクトレイの「EAM-UK500」アイコンを右クリックして[設定メニュー]を表示させると、[規定ユーザ]のところに「ユーザ名」と「シリアルナンバー」が表示されます。</p>

質 問	回 答
<p>「EAM-UK500」キーを抜いた状態でパソコンの電源を入れるとどうなりますか？また、その状態からパソコンの電源を落とすこと（「シャットダウン」など）はできますか？</p>	<p>「スクリーンセーバロック」や「キーのみWindows自動ログオン」の設定をONにしている場合は、パソコンに「EAM-UK500」キーを差し込まないと使用できません。キーを差し込まないで電源を入れた場合は、キーを抜いた状態では正常にパソコンの電源を落とすことはできません（強制終了となります）。</p>
<p>暗号化ファイルやフォルダがある状態で、Windows標準のバックアップツールを使ってバックアップツールを使っても大丈夫ですか？</p>	<p>Windows標準のバックアップツールでバックアップを行う場合は、暗号化ファイルやフォルダをすべて解除してから行ってください。上記以外でバックアップを行うと、暗号化ファイルが破壊される可能性があります。</p>
<p>暗号化ファイルやフォルダがある状態で、デフラグを行っても大丈夫ですか？</p>	<p>暗号化ファイルを含むドライブのデフラグを行う場合は、「EAM-UK500」キーを差し込まないで行ってください。キーを差し込んだ状態でデフラグを行うと、デフラグ終了後に暗号化ファイルが破壊される可能性があります。</p>
<p>暗号化ファイルやフォルダがある状態で、ファイルシステムをFAT32からNTFSへ変更しても大丈夫ですか？</p>	<p>ファイルシステムをFAT32からNTFSへ変更を行う場合は、暗号化ファイルやフォルダをすべて解除してから行ってください。上記以外で変更を行うと、暗号化ファイルが破壊される可能性があります。原則として、OSやシステムに関わる操作を行う場合は、暗号化ファイルやフォルダをすべて解除してください。</p>

おもな仕様

●FILSAFER KEY EAM-UK500

インターフェース	USB1.1 準拠
電力消費	100mA 以下 (USB コネクタより供給)
サイズ	17 (W) × 53 (D) × 8 (H) mm
重量	10g

索引

英数記号

CD-ROM.....	7
CD-ROMドライブ.....	20, 112
CPU(動作環境).....	20
DES.....	139
「EAM-UK500」.....	14, 20
～による暗号化.....	57
「EAM-UK500」アイコン.....	37
「EAM-UK500」キー.....	29, 127
.egi形式.....	105
.eki形式.....	129
.epk形式.....	68, 71, 75
.exeファイル.....	60
FILSAFER KEY.....	7
FILSAFER KEY エクスプレスインストラー.....	21
IDEA.....	139
LAN.....	17, 56, 85
.nkf形式.....	88, 110
Password Memory.....	38
PIN.....	134, 136
PIN保護.....	134, 137
RC5.....	139
RC6.....	139
TDES.....	139
TWOFISH.....	139
TypeA.....	21, 137
TypeB.....	21, 138
USB 1.1.....	20
USBハブ.....	20
Windows2000/XP.....	20, 58, 59
Windows98SE/Me.....	20, 45, 58, 59
WindowsXP Service Pack 2.....	30
Windows自動ログオン.....	15, 44
Windows自動ログオン設定.....	38

あ行

アクセス	
～可能なユーザを削除する.....	81, 90
～可能なユーザを追加する.....	79, 89, 106
アクセス禁止.....	18, 112
アクセス権.....	56, 82
アフターサービス.....	160
アンインストール.....	25
暗号アルゴリズム.....	138
暗号化.....	16, 55
暗号化ファイル	
～の暗号を解除する.....	61, 67
～を開く.....	60
暗号化ファイルマネージャ.....	64
暗号化ファイルやフォルダの共有.....	68, 78
暗号化フォルダ	
～の暗号を解除する.....	63
暗号書庫化.....	86, 109
暗号書庫ファイル.....	88, 110
～の暗号を解除する.....	91
一般ユーザ.....	83
一般ユーザキー.....	91
インストーラー.....	21
インストール.....	20
インターフェース(動作環境).....	20
インポート	
「EAM-UK500」キーからユーザ情報を～.....	71
「EAM-UK500」ユーザ情報ファイルからユーザ情報を～.....	75
ユーザグループ情報の～.....	104
ウィルス駆除ソフト.....	21
エクスポート	
ユーザ情報を～.....	70
ユーザグループ情報の～.....	104

オーナー	59, 83, 88
オーナーキー	61, 79, 89, 91, 106, 127

か行

外部メディア	
～のアクセス禁止	18, 112
画像ファイルの暗号化	59
管理者キー	25, 31, 127, 137, 138
キー情報	
～を消去する	133
～をバックアップする	129
～を復元する	131
キー情報バックアップファイル	34, 35, 129
キー設定	38, 127
キーの再生成	127
キーの生成	29, 127
キーのみログオン設定	
～をONにする	48
～をOFFにする	52
規定ユーザ	38
グループマネージャ	103
公開鍵暗号方式	56
誤入力許容回数 (PIN保護)	136
コンピュータ	
～をロックする	142

さ行

削除 (アクセス権)	82, 83
サスペンドモード	43
自動ログオフ設定	
～をONにする	140
～をOFFにする	141
修復インストール	27
消去	

キー情報の～	133
シリアルナンバー	38
スクリーンセーバロック	14
～をONにする	40
～をOFFにする	43
スペアキー	34, 36
セーフモード	48
セキュリティ	14, 56, 85
設定メニュー	37
ソフトウェア使用許諾契約書	1, 23

た行

対応OS (動作環境)	20
対応PC (動作環境)	20
タスクトレイ	37
ディスプレイ (動作環境)	20
電子メール	17, 56, 85
動作環境	20
ドライブ (動作環境)	20

な行

ネットキー	17, 56, 85
～を利用してファイルを暗号書庫化する	86
ネットキーツールバー	92

は行

バージョン情報	38
ハードディスク空き容量 (動作環境)	20
パスワード (「EAM-UK500」キーの生成)	32
パスワード (Password Memory)	120
～を自動生成する	125
パスワードメモリー	19, 115
～のパスワード情報を削除する	124
～のパスワード情報を修正する	123
～にパスワード情報を追加する	115
～をパスワードで保護する	120

～を利用する.....	125
バックアップ	
キー情報の～.....	129
バックアップファイルの確認と更新.....	41, 50, 119
開く(アクセス権).....	82, 83
ファイル	
～の暗号化.....	16
～の暗号を解除する.....	61
～を暗号化する.....	57
～を暗号書庫化する.....	86, 109
ファイル管理.....	38, 64
フォルダ	
～の暗号化.....	16
～の暗号を解除する.....	63
～を暗号化する.....	61
復元	
キー情報の～.....	131
フルアクセス(アクセス権).....	82, 83
フロッピーディスクドライブ.....	112
ヘルプ.....	38
編集(アクセス権).....	82, 83
保証書.....	7

ま行

メールアドレス(「EAM-UK500」キーの生成) ...	32
メール送信.....	110
メモリ(動作環境).....	20

や行

ユーザキー.....	31, 127, 137, 138
ユーザグループ.....	95, 106, 109
ユーザグループ情報	
～をインポートする.....	105
～をエクスポートする.....	104
ユーザグループ情報ファイル.....	105

ユーザグループ方式.....	93
ユーザ情報	
～のインポート.....	71, 75
～のエクスポート.....	70
～の削除.....	77
ユーザ情報ファイル.....	68, 71, 75
ユーザ登録.....	160
ユーザ名(「EAM-UK500」キーの生成) ...	32
ユーザリスト方式.....	93

ら行

リストユーザ.....	83
リムーバブルディスク.....	35
リムーバブルディスクドライブ.....	112
ロック	
コンピュータの～.....	142

MEMO

お問い合わせ表

お問い合わせいただく場合は、あらかじめ以下の項目をご確認の上、お問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

【使用製品について】

製品名	FILSAFER KEY EAM-UK500
バージョン	※バージョンの確認方法は、[設定メニュー]-[バージョン情報]で確認できます。
シリアルNo.	※シリアルNo.の確認方法は、本体裏面ラベルに表示されています。

【使用パソコンについて】

パソコン製品名	※自作機の場合は、マザーボードのメーカーと型番もご確認ください。
OSバージョン	
CPU	
メモリ容量	
ハードディスク容量	
ハードディスク空き容量	

【ご使用の常駐ソフトウェアについて】

ご使用の常駐ソフトウェアを全てご確認ください。ウイルスチェックソフトは必須です。

【接続している周辺機器について】

ご使用の周辺機器のメーカー、製品名、型番をご確認ください。

【お問い合わせ内容】

アフターサービスについて

• ユーザー登録について

本製品に関するアフターサービスをお受けいただくために、必ずユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。

ユーザー登録方法は、同梱のハガキ、FAX、ホームページにて登録が可能です。

ホームページアドレス http://www.sapulife.com/filsafer_key/

• 保証書

保証書は販売店・お買い上げ年月日の記入をお確かめの上、販売店よりお受け取りください。

保証書と保証規定の内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

• 修理に関して

保証期間内は、保証規定に基づいて修理いたします。本体と保証書をお買い上げ販売店にお持ちください。

保証期間後も、修理によって使用可能なときは、お客様のご要望により有償で修理いたします。

なお、修理・検査の際に登録されているキー情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

• お問い合わせ

アフターサービスについてのご相談は、弊社お客様相談室にお問い合わせください。

お問い合わせ、ご相談はフリーダイヤル(全国共通)

お客様相談室 ☎ 0120-201594

受付時間：午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

お客様相談室FAX ☎ 0120-060660

• 最新情報について

FILSAFER KEYに関する最新の情報は、以下のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス http://www.sapulife.com/filsafer_key/

USB認証キー
FILSAFER KEY (フィルセイファーキー)
EAM-UK500 取扱説明書
2005年2月 第1版

FILSAFER KEY

EAM-UK500

取扱説明書

コクヨS&T株式会社

〒537-8686

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
TEL.(06)6976-1221(大代表)

<http://www.sapulife.com/>

お問い合わせ、ご相談はフリーダイヤル(全国共通)

お客様相談室 ☎0120-201594

お客様相談室FAX ☎0120-060660

ver.1